

2023 年度
岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業及び
高次脳機能障がい者地域支援体制整備事業
報 告 書

公益財団法人 いわてリハビリテーションセンター

岩手県高次脳機能障害支援拠点機関

目 次

ご挨拶

I	事業概要	1
II	事業実施報告	4
1	事業報告書	4
2	相談支援状況	7
3	精算書	13
4	会議・研修会・イベント実績	15
5	しずくいしの風～高次脳機能障がいメールニュース～	43
6	高次脳機能障がいカルタ無料配布のお知らせ	47
III	岩手県内の支援拠点機関一覧等	49
1	岩手県支援拠点機関	49
2	地域支援拠点機関	49
3	令和5年度岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業連絡協議会名簿	50

ご挨拶

いわてリハビリテーションセンター
センター長 佐藤 義朝

平成 19 年に、岩手県は当センターを高次脳機能障がい支援拠点期間として指定し、岩手県における高次脳機能障がいの疫学、診断・治療から社会参加に渡る広範囲な調査研究および支援活動を行って参りました。この活動は、多くの関係機関の方々のご支援によってなされたもので、事業を検討する年 2 回の岩手県高次脳機能障がい支援普及事業連絡協議会においては、多くの皆様からご指導を賜りました。殊に、この協議会の会長を長年にわたりお務めになられ、本年 3 月 3 日にご逝去されました、小川 彰先生（現 岩手医科大学名誉理事長）には謹んでご冥福をお祈りするとともに、これまでのご支援に深謝し、今後も更に活動を発展させる所存でございます。

さて、令和 5 年度の事業をご報告させていただきますが、新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行したことを踏まえ、当事者・家族への支援を目的とした交流会や支援者のための研修会は、感染対策を徹底した上での対面開催やオンライン開催を利用することにより、遠方の方でも参加しやすいよう工夫をしております。現在、当センターには、医師、看護師およびリハ職以外に相談支援コーディネーター 4 名（社会福祉士 2 名、臨床心理士 2 名）が兼務にて配置され、専門的な相談支援のみならず関係機関との連絡調整を行っています。具体的には、高次脳機能障がいの診断支援、精神保健福祉手帳や障害年金の申請支援、復職・復学支援、障害者職業センター等関係機関の連携支援などがありますが、最近では生活に欠くことの出来ない自動車運転再開支援の相談も増加しており、今後も様々な方面において本事業の活動が期待されております。

患者さんおよびご家族が住み慣れた地域で、安全かつ安心して暮らしていけるよう、皆様のご協力・ご指導を賜りながら一層尽力して参りますので、よろしく願い申し上げます。

I 事業概要

高次脳機能障がいへの支援の取組みについて

I 本県における現状と課題

＜障がいの概要＞

脳の器質的病変の原因となる交通事故による受傷や脳卒中等の疾病により発生する、記憶障がい、注意障がい、遂行機能障がい及び社会的行動障がい。

＜対象者数＞

高次脳機能障がい者数（推計）

県全体 2,751人（地区内訳 盛岡1,028人、県南1,054人、沿岸421人、県北248人）

※ 国立障害者リハビリテーションセンターがモデル事業実施時に調査した全国の高次脳機能障がい者数の人口比率を岩手の人口比率に換算して算定したものである。

全国の人口	:	全国の高次脳機能障がい者数	=	県人口 * (A)	:	県内の高次脳機能障がい者数 (B)
128,000,000人	:	274,000人	=	1,284,732人	:	2,751人

* 県人口は、岩手県毎月人口（平成26年9月1日現在）

*（参考）比率：0.00214【B/A】

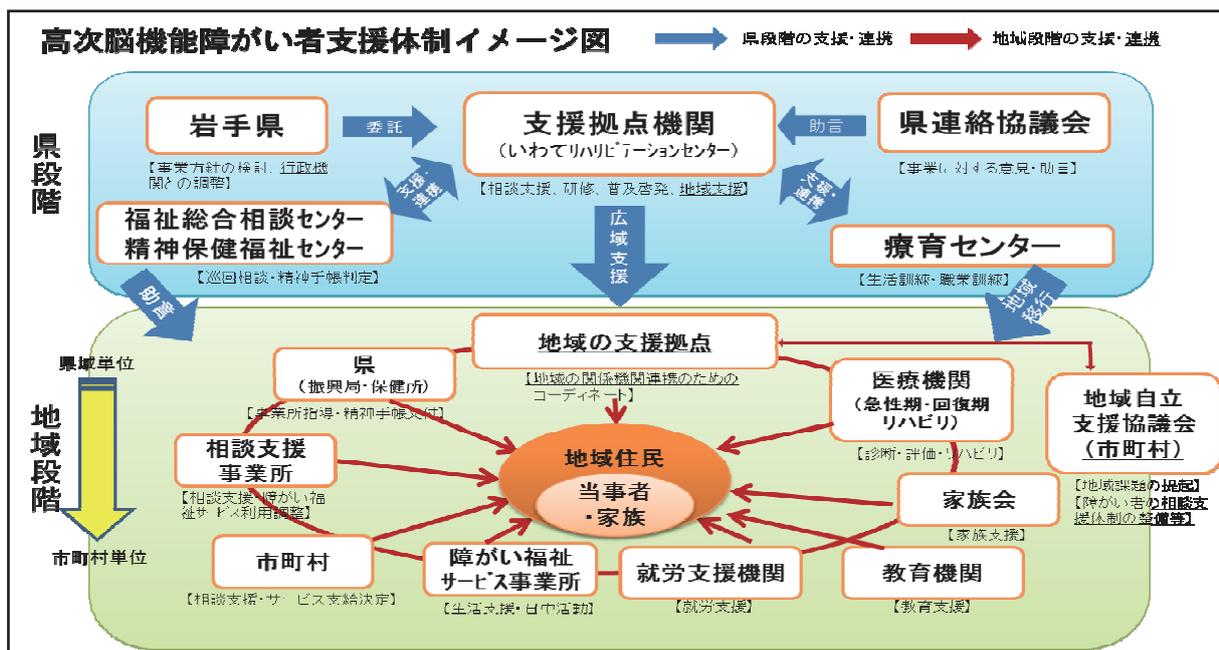
高次脳機能障がい者は、日常生活や社会生活に制約があると診断されれば「器質性精神障害」として、精神障害者保健福祉手帳の申請対象となり、また発症（受傷）が18歳未満で、知的障害と判定された場合に、療育手帳の申請対象となっている。

県内の関係機関で支援を行った高次脳機能障がい者の数が増加している一方、まだ支援実績がない関係機関もあり、関係者の高次脳機能障がいに対する知識や経験が不足している。

また、県民の高次脳機能障がいに関する理解が不足している状況にある。

II 課題への対応（主な取組）

県では、相談支援ネットワークの構築や人材育成、活動交流の場の確保など、高次脳機能障がい者が、孤立せず安心して暮らせる地域づくりに向けて取組を進めている。



1 県の支援拠点機関の設置（いわてリハビリテーションセンター） 平成19年度～

相談支援コーディネーターを配置し、**専門的な相談支援、関係機関との連携、調整**を行う。
また、**普及啓発活動**の他、**支援者を対象とした研修の実施**や**地域支援拠点への訪問等**、**地域での高次脳機能障がい者への取組**を支援する。

【主な取組内容】

(1) 高次脳機能障がい者支援普及事業の実施

① 相談支援の実施

支援拠点機関において、相談支援コーディネーターを配置し、専門的な相談支援及び地域の関係機関との調整を行う。

② 普及啓発活動及び研修の実施

- ・正しい理解の促進のためのHP、パンフレット等による普及啓発や相談窓口の周知。
- ・自治体職員、保健・福祉・医療関係者等を対象とする研修会を開催し、高次脳機能障がいの評価・診断・手法等に関する研修及び普及啓発を実施。
- ・各種会議、研修を通じて行政担当者、相談支援従事者等の連携を推進する。

③ 県連絡協議会の設置・運営

連絡協議会委員による事業全体の検討及び評価を実施する。

令和5年8月10日（木） 14：00～15：30 Web形式

令和6年3月27日（水） 14：00～15：30 Web形式

④ 東北ブロック会議（東北6県持ち回り）の開催

各県及び支援拠点機関等の取組及び現状報告、情報交換等を行う。（書面開催）

(2) 高次脳機能障がい者支援体制整備事業（地域支援）の実施

① 地域支援コーディネーターの配置

地域支援を行うため、支援拠点機関に地域支援コーディネーターを配置する。

② 地域の支援拠点等への訪問支援等

地域の支援拠点等が実施する相談支援やケース会議等への助言や研修の企画支援等を訪問支援等により実施し、相談支援ネットワークの強化を図る。

③ 地域の支援拠点の支援者等育成研修

圏域相談支援コーディネーター研修会

令和5年11月6日（月） 10：30～12：00 集合形式

2 地域の支援拠点の設置 平成 27 年度～

身近な地域で、受傷・発症から社会復帰まで切れ目なく相談・支援を行うことができるよう、順次障がい保健福祉圏域ごとに地域支援拠点を設置し、相談支援体制を整備するとともに、高次脳機能障がいの正しい理解の普及啓発を行う。

1 年目	2 年目	3 年目以降
<p>■ 高次脳機能障がい者 地域支援体制整備事業</p> <p>【概要】 地域の関係機関の連携による相談支援体制を整備するために、地域の支援拠点を設置し、高次脳機能障がい者に対する支援を行う。</p> <p>【内容】</p> <p>① 連絡会の設置・運営 ② 関係機関とのケース会議 ③ 地域の相談支援等 ④ 高次脳機能障がい支援者研修 ⑤ 家族等に対する普及啓発（家族教室等）</p>	<p>■ 高次脳機能障がい者 支援普及事業</p> <p>【概要】 高次脳機能障がいの正しい理解の普及啓発を行う。</p> <p>【内容】</p> <p>⑥ 普及・啓発事業 一般住民、家族、当事者、支援者等への正しい理解の普及啓発</p> <p>※①～⑤は、地域自立支援協議会や市町村の障がい者の相談支援体制等の地域の実情に合わせた既存の枠組みの中で、支援体制整備事業で行ったノウハウを活かした高次脳機能障がい者に対する支援を行っていくもの。</p>	<p>※地域自立支援協議会や市町村の障がい者の相談支援体制等の地域の実情に合わせた既存の枠組みの中で、支援体制整備事業や支援普及事業で行ったノウハウを活かした高次脳機能障がい者に対する支援を行っていくもの。</p>

【実績】

圏域名	H27 年度実績	H28 年度実績	H29 年度実績	H30 年度実績	R1 年度実績
気仙、宮古	体制整備事業	支援普及事業			
久慈、二戸		体制整備事業	支援普及事業		
胆江、釜石			体制整備事業	支援普及事業	
盛岡、中部				体制整備事業	支援普及事業

【地域の支援拠点の設置状況】

年度	圏域	委託先	地域の支援拠点
27	気仙	社会福祉法人大洋会	地域活動支援センター星雲 相談室
	宮古	NPO 法人宮古圏域障がい者福祉推進ネット	相談支援事業所れいんぼー
28	久慈	社団医療法人祐和会	地域生活支援センター久慈
	二戸	社会福祉法人カシオペア障連	地域生活支援センター・カシオペア
29	釜石	釜石大槌地域障がい者自立支援協議会	地域活動支援センター釜石
	胆江	奥州市	愛護会障害者相談支援センター
30		社会福祉法人フレンドシップいわて	指定相談支援事業所サポートにじ
30	盛岡	NPO 法人いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴ	いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴ
	中部	NPO 法人いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴ	いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴ県南地区
	両磐	—	—

※ 両磐圏域については、圏域内の市町や関係機関と協議を重ねた結果、県の委託による事業は実施せず、既存の相談支援体制により対応されることとなったため、委託先及び地域の支援拠点はなし。

II 事業実施報告

岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業

岩手県高次脳機能障がい者地域支援体制整備事業「県の支援拠点機関による地域支援」

令和5年度事業報告書

1 令和5年度の重点事項

- (1) 地域の実情に合わせて、高次脳機能障がい者の受け入れの拡大を図る。
- (2) 地域の支援ネットワークの構築に向けて、関係機関の調整を図る。

2 支援ネットワーク構築のための連絡協議会の開催

- (1) 高次脳機能障がい者支援普及事業連絡協議会

①第1回 令和5年8月10日(木) 14:00-15:30 Web形式 参加者:26名参加

②第2回 令和6年3月27日(水) 14:00-15:30 Web形式 参加者:24名参加

- (2) 圏域相談支援コーディネーター会議

令和5年11月6日(月) 10:30-12:00 場所:エスポワール

県職員1名、圏域相談支援コーディネーター10名、事務局2名 計13名参加

3 事業運営のための会議の開催

- (1) 高次脳機能障がい者支援担当者会議 12回開催
- (2) 高次脳機能障がい者カンファレンス 10回開催

4 専門的な相談支援体制の整備

相談支援コーディネーター4名(MSW2名、心理士2名)を配置し、専門的な相談支援及び関係機関との連絡調整を行った。

- (1) 当事者及び家族の相談支援 のべ853件(4/1~3/31まで) 【参考】R4年同期間のべ804件

相談及び対応の方法	件数	【参考】R4	比較増減
電話	338件	232件	+106
来院/来所	395件	494件	-99
メール・書簡	95件	45件	+50
その他(訪問・同行等)	25件	33件	-8

- (2) 機関及び施設等の相談支援 のべ438件(4/1~3/31まで) 【参考】R4同期間のべ308件

相談及び対応の方法	件数	【参考】R4	比較増減
電話	331件	248件	+83
来院/来所	48件	12件	+36
メール・書簡	58件	47件	+11
その他(訪問・同行等)	1件	1件	±0

5 支援の普及に向けた研修会の開催

- (1) 高次脳機能障がい圏域コーディネーター研修会（圏域のコーディネーター対象）
令和5年11月6日(月) エスポワール
圏域相談支援コーディネーター7名、事務局2名 計9名参加
- (2) 高次脳機能障がい支援研修会（医師及びコメディカル対象）
令和6年1月15日(月)～1月28日(金) オンデマンド配信
講演：小児の高次脳機能障害と対応方法について
講師：神奈川県総合リハビリテーションセンター小児科栗原まな氏
申込：55名（うち医師19名）
- (3) 高次脳機能障がい支援研修会（地域の支援者対象）
令和6年1月19日(金)
講師：栃内第二病院 リハビリテーション部 副部長 公認心理士 山館圭子氏
参加者：33名
- (4) フォーラム（県民対象）
令和5年10月21日(土)
アイーナにて開催のいわてリハビリテーションフォーラムにて、高次脳機能障がいの資料展示及びトートバッグの配布を行った。

6 地域における支援体制整備のための支援

- (1) 気仙圏域：地域支援拠点機関の星雲相談室と協働して地域支援体制の整備を図った。
 - ①連絡会
令和5年9月7日（職員2名派遣）
 - ②家族交流会
令和5年10月21日（職員1名派遣）
令和6年1月20日（職員1名派遣）
- (2) 宮古圏域
 - ①研修会
令和5年12月7日（職員1名派遣）
 - ②連絡会
令和6年3月1日（職員1名派遣）
- (3) 二戸圏域：地域生活支援センター・カシオペアと協働して地域支援体制の整備を図った。
 - ①家族会
令和5年11月11日（職員1名派遣）
- (4) 奥州圏域
 - ①奥州市地域自立支援協議会 地域生活支援部会 高次脳機能障害研修会
令和5年9月25日（職員2名派遣）

7 事業周知のためのPR・広報活動の実施

- (1) 当センターホームページにて、県内の研修情報を掲載した。
- (2) メールニュースを配信し、高次脳機能障がいに対する理解と支援の拡大を図った。
- (3) カルタの無料配布を継続して実施した。申し込みに応じてカルタを郵送した。

8 当事者・家族を中心とした普及啓発事業の実施

(1) じゃじゃじゃ交流会

令和5年9月9日(土)13:00-16:00

参加者：当事者28名、家族19名、支援者26名参加

(2) 当事者のためのオンラインサロンを毎月第4土曜日10:30-11:30に実施

第1回	5月27日	当事者3名	当センター職員2名
第2回	6月24日	当事者5名	当センター職員2名
第3回	7月22日	当事者6名	当センター職員2名
第4回	8月26日	当事者7名	当センター職員3名
第5回	9月23日	当事者5名	当センター職員3名
第6回	11月4日	当事者6名	当センター職員2名
第7回	11月25日	当事者3名	当センター職員3名
第8回	12月23日	当事者5名	当センター職員2名
第9回	1月27日	当事者4名	当センター職員2名
第10回	2月24日	当事者5名	当センター職員3名
第11回	3月23日	当事者5名	当センター職員2名

9 全国・東北ブロック組織及び県内関係機関との連携・協力

(1) 会議及び研修会等での連携

会議名・研修会名等	期日	場所・方法	出席者等
高次脳機能障害全国連絡協議会 第1回	6/28	Web	4名(県庁・リハセン担当者)
第2回	2/16	Web	4名(県庁・リハセン担当者)
高次脳機能障害東北ブロック会議		書面開催	
岩手県障害者就業・生活支援センター連絡協議会及び就労移行支援事業所連絡会合同研修会	4/28	ふれあいランド	職員2名派遣
いわて脳損傷リハビリテーション講習会	①11/25 ②1/14	①岩手県自治会館 ②一関文化センター	実行委員として職員3名対応

(2) 機関としての連携

①いわて高次脳機能障害友の会「イーハトーヴ」

・研修会及び講習会の開催、地域支援拠点機関の支援について連携協力を行った。

②岩手障害者職業センター

・高次脳機能障がいへのケース支援を協働で行った。

10 コーディネーターのスキルアップのための研修派遣

(1) 高次脳機能障害支援コーディネーター全国会議

第1回 令和5年6月28日 Web開催(職員2名参加)

第2回 令和6年2月16日 Web開催(職員2名参加)

(2) 高次脳機能障害サポーター養成講座(ハイブリッド形式)

令和5年10月~12月 計4回 (職員1名参加)

(3) 日本高次脳機能障害友の会全国大会2023in東京

令和5年10月1日(職員2名参加)

(4) 第47回日本高次脳機能障害学会

令和5年10月28日-29日(職員2名参加)

2 相談支援状況

いわてリハビリテーションセンター

高次脳機能障害支援状況（令和5年度）

	新規	継続	主治医		方法								カンファレンス	合計	備考
					面談		電話		訪問		文書				
			当院	他院	直接	間接	直接	間接	直接	間接	直接	間接			
4月	9	114	63	60	35	5	39	31	3	0	5	5	0	123	
5月	16	140	62	94	48	4	46	39	2	0	14	1	2	156	
6月	21	162	48	135	44	15	43	39	0	0	25	15	2	183	
7月	3	119	57	65	50	6	32	19	0	0	6	9	0	122	
8月	7	121	28	100	43	7	27	37	0	0	6	7	1	128	
9月	5	103	27	81	37	5	23	36	1	0	2	3	1	108	
10月	13	123	35	101	40	1	40	37	5	1	4	7	1	136	
11月	11	98	46	63	31	1	24	34	0	0	14	3	2	109	
12月	3	64	16	51	8	0	25	18	0	0	10	4	2	67	
1月	1	56	27	30	18	0	19	11	1	0	6	2	0	57	
2月	4	58	30	32	25	4	14	17	0	0	1	0	1	62	
3月	3	37	12	28	16	0	6	13	0	0	2	2	1	40	
合計	96	1195	451	840	395	48	338	331	12	1	95	58	13	1291	

相談内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	備考
外来受診	10	41	65	26	25	24	31	19	15	9	7	6	278	
入院検査	1	4	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	8	
診断/評価	5	18	34	11	7	8	2	11	4	1	2	2	105	
医療/生活	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	8	
交通事故関係	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	
障害者手帳関係	2	5	4	7	12	4	0	7	2	3	3	6	55	
福祉サービス利用	39	17	7	3	5	14	28	20	9	1	6	4	153	
年金/社会保障制度	3	2	13	17	16	5	3	6	8	9	11	4	97	
日常生活	34	31	19	14	7	12	23	16	10	5	1	2	174	
家族/対人関係	9	1	0	3	5	18	16	12	4	6	5	7	86	
復学/教育	4	6	12	19	11	16	4	3	5	7	2	3	92	
復職/就業	18	35	35	25	33	19	26	23	9	11	19	10	263	
職業訓練/評価	0	1	4	1	1	4	1	3	1	0	1	0	17	
自動車運転関係	17	41	45	24	37	21	34	9	8	10	1	7	254	
障害理解/対応	1	2	6	0	4	2	6	4	3	5	1	6	40	
家族会関係	0	1	7	1	1	2	5	1	1	2	5	0	26	
その他	1	16	24	7	4	0	3	9	5	1	2	0	72	

令和5年度 高次脳機能障がい者支援普及事業相談支援状況報告書

いわてリハビリテーションセンター

【相談支援の概要】

1 相談件数 延べ1,291件 (4/1~3/31) 実人数116名

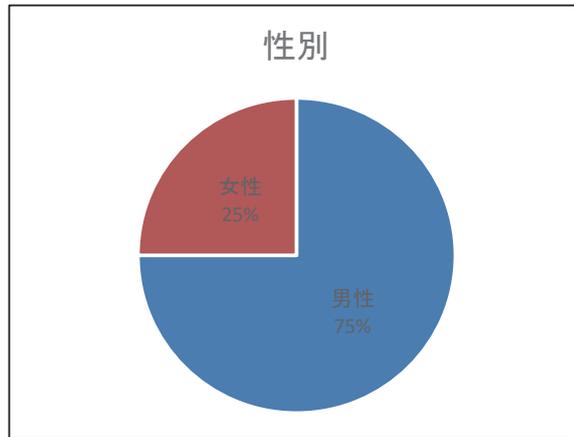
※令和4年度同期間実績:1,112件(実人数116名)

2 相談対象者の属性

(1) 性別

男性 : 87名 (75%)

女性 : 29名 (25%)



(2) 年齢構成

10歳未満 : 0名 (0%)

10歳代 : 5名 (4%)

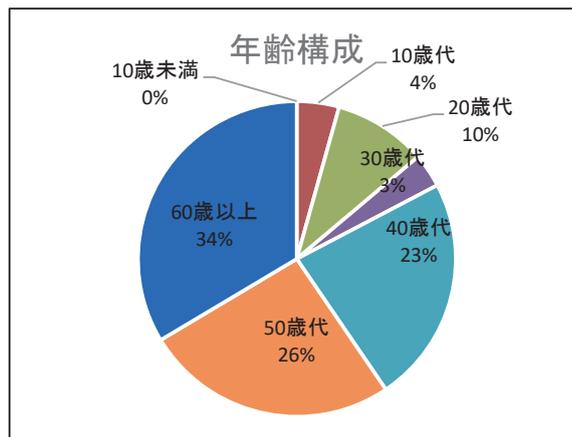
20歳代 : 11名 (10%)

30歳代 : 4名 (3%)

40歳代 : 27名 (23%)

50歳代 : 30名 (26%)

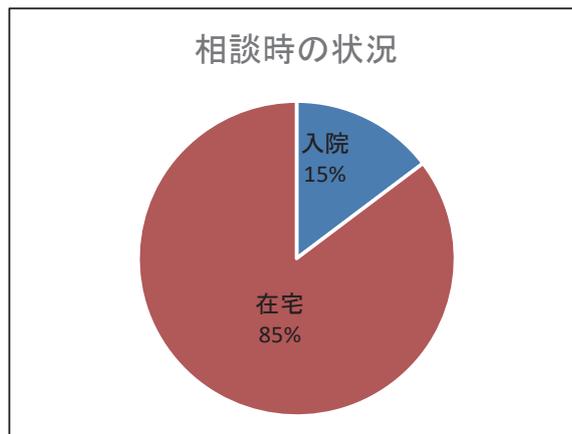
60歳以上 : 39名 (34%)



(3) 相談時の状況

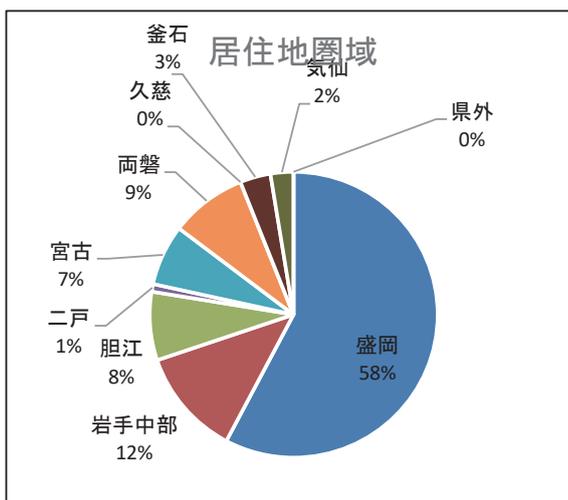
入院中 : 17名 (15%)

在宅 : 99名 (85%)



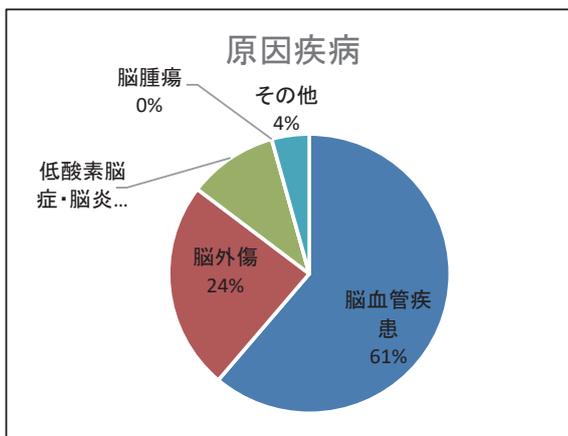
(4) 居住地圏域

盛岡	: 67名 (58%)
岩手中部	: 14名 (12%)
胆江	: 9名 (8%)
二戸	: 1名 (1%)
宮古	: 8名 (7%)
両磐	: 10名 (9%)
久慈	: 0名 (0%)
釜石	: 4名 (3%)
気仙	: 3名 (2%)
県外	: 0名 (0%)



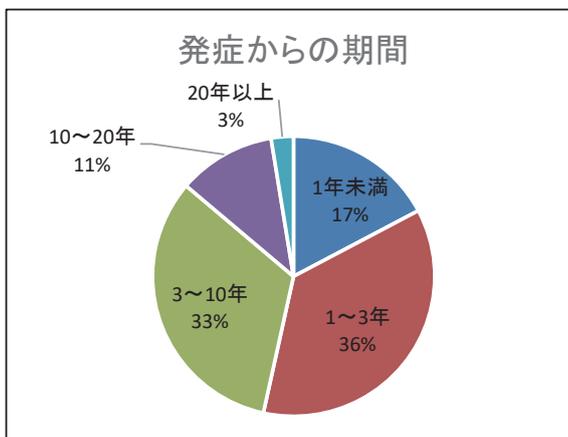
(5) 原因傷病

脳血管疾患	: 71名 (61%)
脳外傷	: 28名 (24%)
低酸素脳症	
・脳炎	: 12名 (11%)
脳腫瘍	: 0名 (1%)
その他	: 5名 (4%)



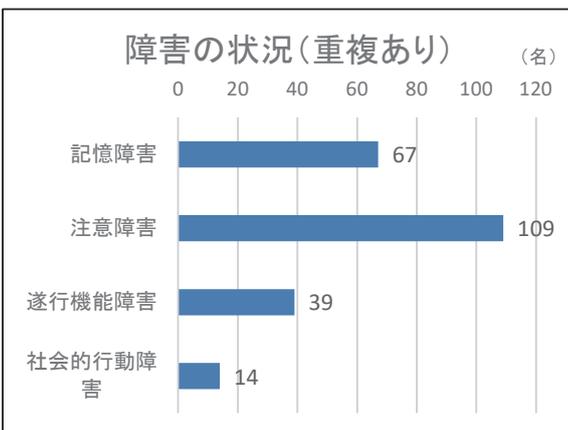
(6) 発症からの期間

1年未満	: 20名 (17%)
1～3年	: 42名 (36%)
3～10年	: 38名 (33%)
10～20年	: 13名 (11%)
20年以上	: 3名 (3%)



(7) 障害の状況 (重複あり)

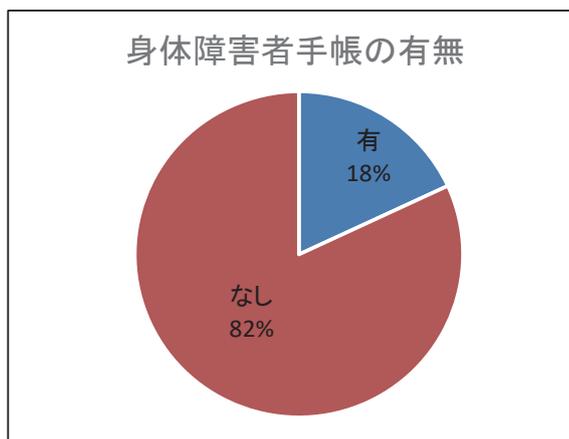
記憶障害	: 67名
注意障害	: 109名
遂行機能障害	: 39名
社会的行動障害	: 14名



(8) 身体障害者手帳の有無

有 : 21名 (18%)

なし : 95名 (82%)



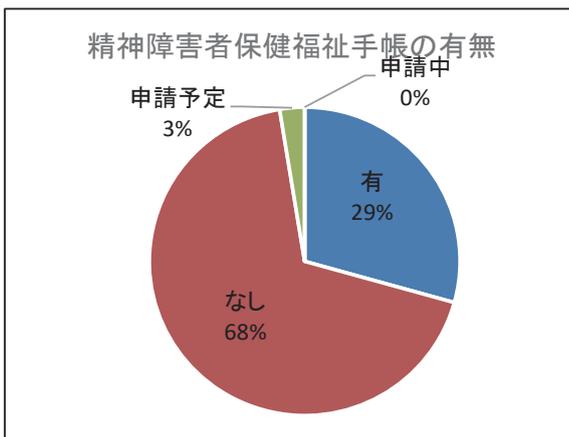
(9) 精神保健福祉手帳の有無

有 : 34名 (29%)

なし : 79名 (68%)

申請予定 : 3名 (3%)

申請中 : 0名 (0%)



(10) 障害年金の受給状況

受給中 : 28名 (24%)

申請中 : 1名 (1%)

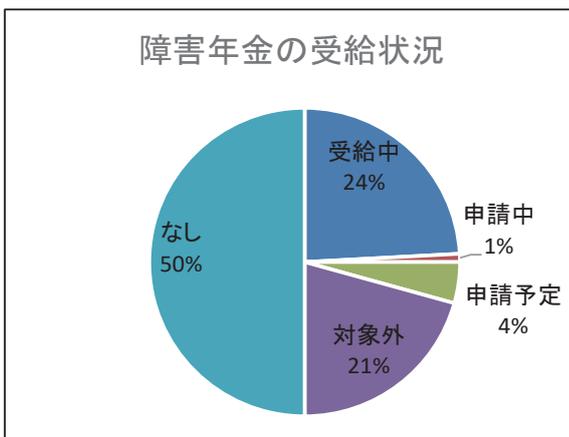
申請予定 : 5名 (4%)

対象外 : 24名 (21%)

(対象外内訳: 未成年、受給資格なし)

なし : 58名 (50%)

(なし内訳: 希望無し、老齢年金受給中)

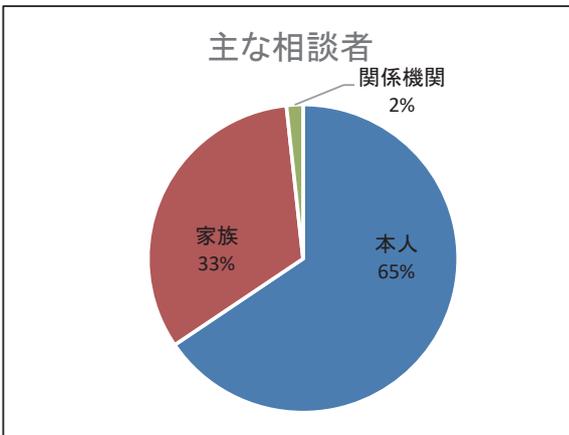


3 主な相談者

本人 : 76名 (65%)

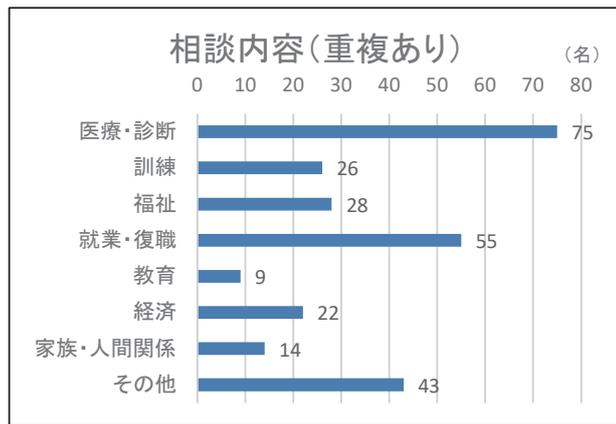
家族 : 38名 (33%)

関係機関 : 2名 (2%)



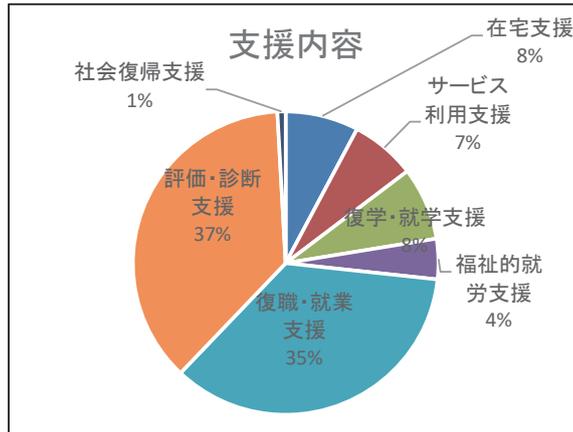
4 相談内容（重複）

医療・診断	: 75名
訓練	: 26名
福祉	: 28名
就業・復職	: 55名
教育	: 9名
経済	: 22名
家族・人間関係	: 14名
その他	: 43名



5 支援内容

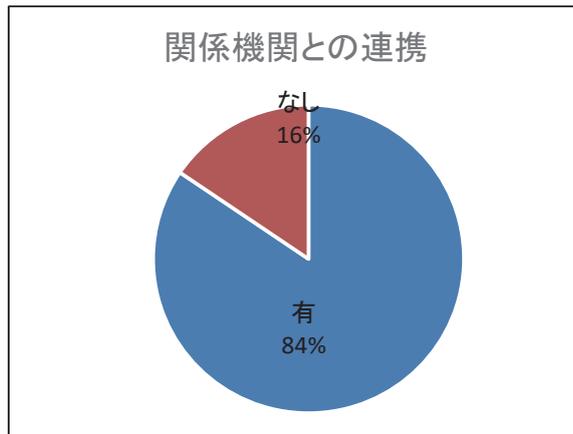
在宅支援	: 9名 (8%)
サービス利用支援	: 8名 (7%)
復学・就学支援	: 9名 (8%)
福祉的就労支援	: 5名 (4%)
復職・就業支援	: 41名 (35%)
社会復帰支援	: 1名 (1%)
評価診断支援	: 43名 (37%)



6 関係機関との連携

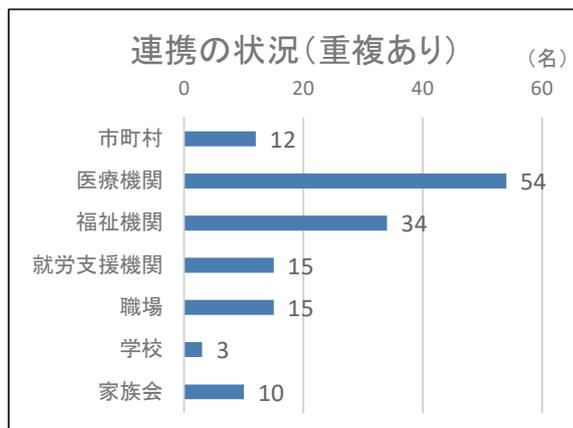
(1) 連携の有無

有	: 98名 (84%)
なし	: 18名 (16%)



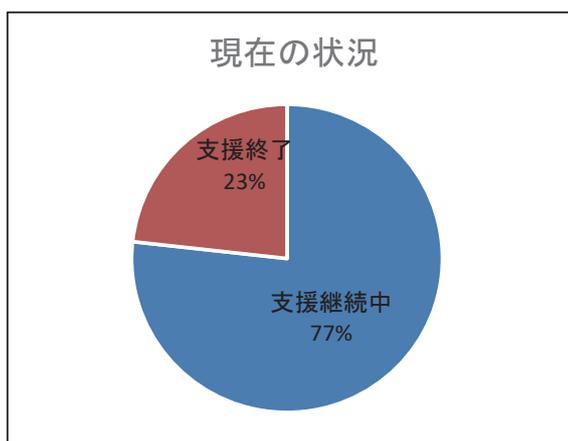
(2) 連携の状況（重複）

市町村	: 12名
医療機関	: 54名
福祉機関	: 34名
就労支援機関	: 15名
職場	: 15名
学校	: 3名
家族会	: 10名



7 現在の状況

支援継続中：89名（77%）
 支援終了：27名（23%）



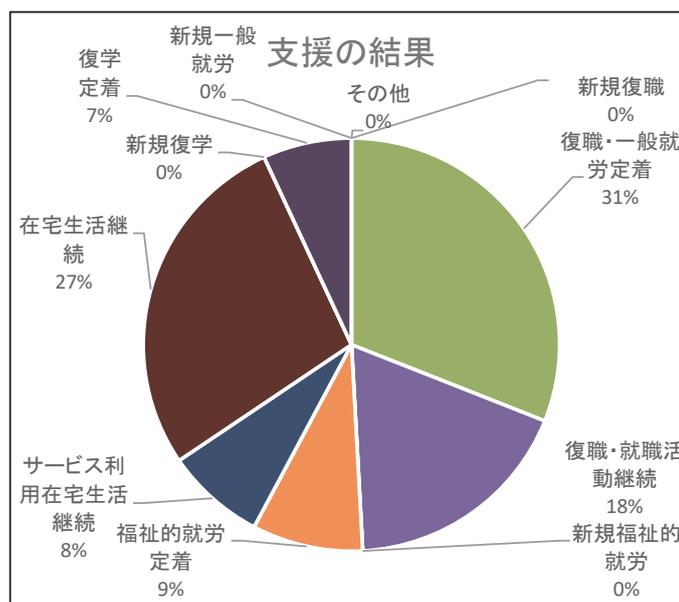
8 支援の結果

新規一般就労：0名 小計57名
 新規復職：0名
 復職・就労定着：36名
 復職・就職活動継続：21名

新規福祉的就労：0名 小計10名
 福祉的就労定着：10名

サービス利用
 在宅生活継続：9名 小計41名
 在宅生活継続：32名

新規復学：0名 小計8名
 復学定着：8名



9 相談支援例

- ・患者、家族から相談を受け、家族会へ相談同行しているケース
- ・在宅生活を継続できるよう関係機関と連携を図っているケース
- ・障害者職業センターと連携し職場復帰及び復帰後のフォローを行っているケース
- ・地域の医療機関から検査及び評価依頼で関わったケース
- ・復学定着や進路先決定に向けて学校、他の医療機関、地域支援拠点機関等と連携したケース

10 その他

自動車運転が復職や就労の条件となっているケースも多い

令和元年度	6件
令和2年度	20件
令和3年度	26件
令和4年度	30件
令和5年度	22件

3 精算書

令和5年度岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業収支精算書

収入

単位:円

科目	予算額	精算額	差額	摘要
1 委託料収入	3,461,590	3,461,590	0	岩手県
2 自己資金	0	29,047	△ 29,047	
合計	3,461,590	3,490,637	△ 29,047	

支出

単位:円

項目	予算額	精算額	差額	摘要
1 人件費支出	1,415,000	1,491,017	△ 76,017	担当職員分人件費
2 諸謝金	438,000	487,700	△ 49,700	委員及び講師等報償費
3 旅費交通費	135,000	0	135,000	
4 印刷製本費	552,000	486,200	65,800	事業報告書等の印刷代等
5 通信運搬費	362,000	597,584	△ 235,584	HP更新及びオンライン研修の配信経費等
6 会議費	39,900	45,586	△ 5,686	交流会等の飲食費等
7 賃借料	205,000	67,860	137,140	研修会及び交流会の会場借用費等
8 租税公課	314,690	314,690	0	消費税
合計	3,461,590	3,490,637	△ 29,047	

令和5年度岩手県高次脳機能障がい者地域支援体制整備業「県の支援拠点機関による地域支援」収支精算書

収入の部

単位:円

科目	予算額	精算額	差額	摘要
1 委託料収入	5,917,065	5,917,065	0	岩手県
2 自己資金	0	39,788	△ 39,788	
合計	5,917,065	5,956,853	△ 39,788	

支出の部

単位:円

項目	予算額	精算額	差額	摘要
1 人件費支出	3,400,000	3,426,114	△ 26,114	職員分人件費
2 諸謝金	50,000	0	50,000	
3 旅費交通費	548,000	288,010	259,990	支援コーディネーター等の研修旅費
4 印刷製本費	775,000	956,450	△ 181,450	みらいソートの作成経費等
5 通信運搬費	207,200	135,300	71,900	ホームページの改修費用等
6 賃借料	394,000	613,064	△ 219,064	公用車及び、パソコンリース料等
7 会議費	4,950	0	4,950	
8 租税公課	537,915	537,915	0	消費税
合計	5,917,065	5,956,853	△ 39,788	

4 会議・研修会・イベント実績

● 会議

開催日	会議名	参加者数	備考
令和5年 8月10日	第1回岩手県高次脳機能障がい者 支援普及事業連絡協議会	26名	Web形式
令和5年 11月6日	圏域相談支援コーディネーター会議	13名	集合
令和6年 3月27日	第2回岩手県高次脳機能障がい者 支援普及事業連絡協議会	24名	Web形式

● イベント

令和5年10月21日アイーナにて開催のいわてリハビリテーションフォーラムで
高次脳機能障がいの資料展示及びトートバッグの配布を行った。

● 研修会

日	研修会名	講師・報告者	参加者数
令和5年 10月26日	圏域相談支援コーディネーター研修会 【テーマ】 事例報告・意見交換 テーマ：当事者と家族とのそれぞれの思い が異なる場合の支援について	レインボーネット 事務局次長 佐々木大介氏	9名
令和6年 1月15日(月)～ 1月28日(金) ※オンデマンド配信	高次脳機能障がい者支援研修会 (医師及びコメディカル対象) 【テーマ】 小児の高次脳機能障害と対応方法について	神奈川県総合リハビリテーションセンター小児 科栗原まな氏	55名
令和6年 1月19日(金)	高次脳機能障がい支援研修 (医療・福祉、行政関係対象等支援者) 【テーマ】 ①講義 「高次脳機能障害とは？」 ②演習 障害特性の理解と対応方法 ～ロールプレイ・事例検討～	①講義 いわてリハビリテーションセンター 高次脳機能障害支援コーディネーター ②演習 栃内第二病院 リハビリテーション部 副部長 公認心理士 山館圭子氏	33名

● イベント

日	イベント名	プログラム	参加者数
令和5年 9月9日	じゃじゃじゃ交流会2023	・第1部(13:15-13:45) 講演「高次脳機能障害 戦略的当事者について」 講師 文筆家 鈴木大介氏 ・第2部(14:00-14:30) 鈴木大介氏とピアサポーター阿部類氏の対談 ～事前にいただいた質問の内容を中心に～ ・第3部(14:45-15:45) グループワーク	当事者28名 家族19名 支援者26名
令和5年5月～ 令和6年3月	高次脳機能障がい当事者のための オンラインサロン(zoom)	毎月第4土曜日10:30-11:30に実施	当事者54名 (延べ人数)

令和5年度岩手県高次脳機能障がい者地域支援体制整備事業
圏域相談支援コーディネーター会議・研修会開催要綱

1 目的

高次脳機能障害の多くは外見からは分かりにくく、本人も自覚していないことが多く、家族からも理解されにくい状況にあります。また、社会生活上様々な支障が生じていても、身体機能に障害がない場合は、社会的な支援を受けにくい状況にあります。

本研修会はこの障がいの支援を行う専門職を対象に、その特性とその対応について理解を深めるとともに地域での支援ネットワークの推進を目的に開催します。

2 主催

公益財団法人いわてリハビリテーションセンター

3 期日

令和5年11月6日(月) 会議 10:30~12:00
研修会 13:00~15:00

4 場所

エスポワールいわて 1階 小会議室 盛岡市中央通り1丁目1-38 Tel:019-623-6251

--

5 対象

圏域相談支援コーディネーター

6 内容

10:30 ~12:00 令和4年度事業報告及び令和5年度事業計画について

- ・岩手県保健福祉部障がい保健福祉課
- ・いわてリハビリテーションセンター
- ・地域支援拠点機関(8圏域9機関)

13:00 ~15:00 事例報告・意見交換

テーマ：当事者と家族とのそれぞれの思いが異なる場合の支援について

事例提供：レインボーネット 事務局次長 佐々木大介氏

15:00 閉会

7 その他

対面での会議・研修を予定しておりますが新型コロナウイルス感染拡大状況によっては、オンラインでの実施も検討します。

高次脳機能障がい者支援研修会（医師及びコメディカル対象）開催要綱

1 目的

「見えない障害」といわれる高次脳機能障がい者の支援に関わっている、あるいは関わる可能性のある医師及び医療従事者を対象として開催します。本事業は岩手県の委託事業として実施するものです。

2 主催

いわてリハビリテーションセンター

3 共催

岩手高次脳機能障害研究会

4 後援

岩手県医師会

5 期日

令和6年1月15日(月)～令和6年1月28日(日)

※オンデマンド配信

6 対象

県内の脳神経外科、脳神経内科、リハビリテーション科、神経精神科、精神科、救急科等の医師及びコメディカル

7 内容

講演：「小児の高次脳機能障害と対応方法について」

講師：神奈川県総合リハビリテーションセンター 小児科 栗原まな 先生

座長：岩手医科大学附属病院 病院長 小笠原 邦昭 先生

8 参加経費

研修参加費 無料

9 申込方法等

参加希望の方は裏面「申し込み方法」を確認のうえ、メールで申し込みをお願いします。

10 問い合わせ先

いわてリハビリテーションセンター 総合相談科〈担当：上田・後藤〉

〒020-0503 岩手郡雫石町七ツ森 16-243 TEL：019-692-5800 FAX：019-692-5807

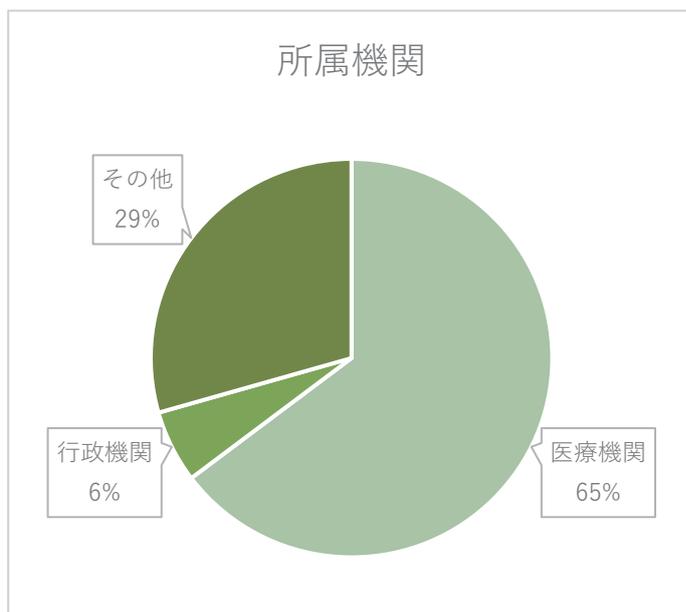
高次脳機能障がい者支援研修会（医師及びコメディカル対象）

アンケート結果

開催期間：令和6年1月15日（月）～28日（日）オンデマンド配信 回答数：17

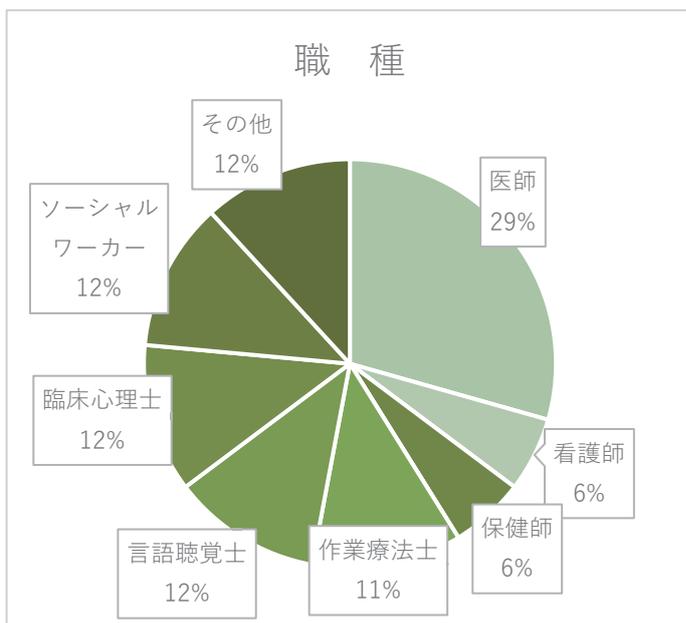
1. 回答者の勤務先

所属機関	回答数
医療機関	11
行政機関	1
その他	5
合計	17



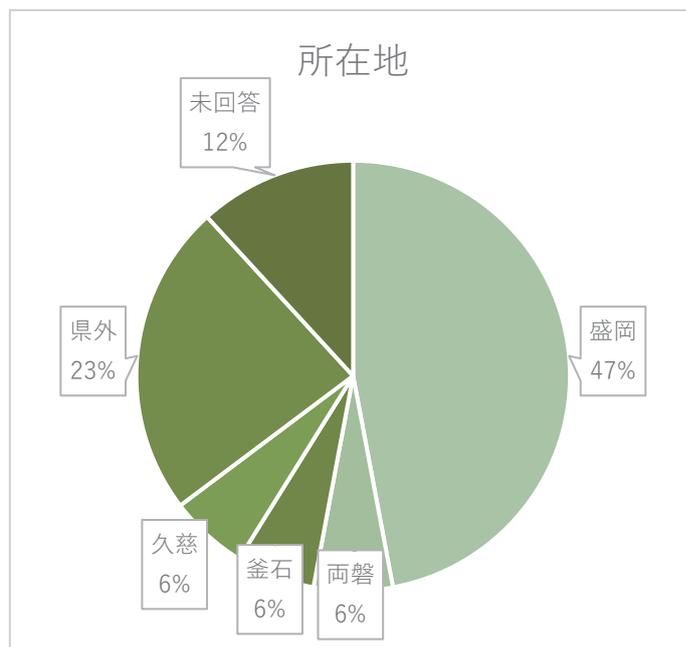
2. 回答者の職種

職種	回答数
医師	5
看護師	1
保健師	1
理学療法士	0
作業療法士	2
言語聴覚士	2
臨床心理士・公認心理師	2
ソーシャルワーカー	2
その他	2
合計	17



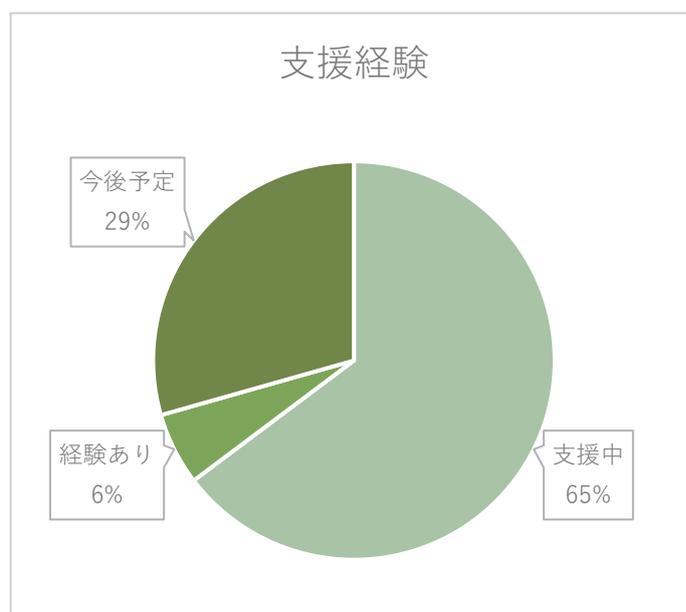
3. 回答者の勤務先所在地

職種	回答数
盛岡	8
中部	0
両磐	1
二戸	0
胆江	0
宮古	0
釜石	1
久慈	1
県外	4
未回答	2
合計	17



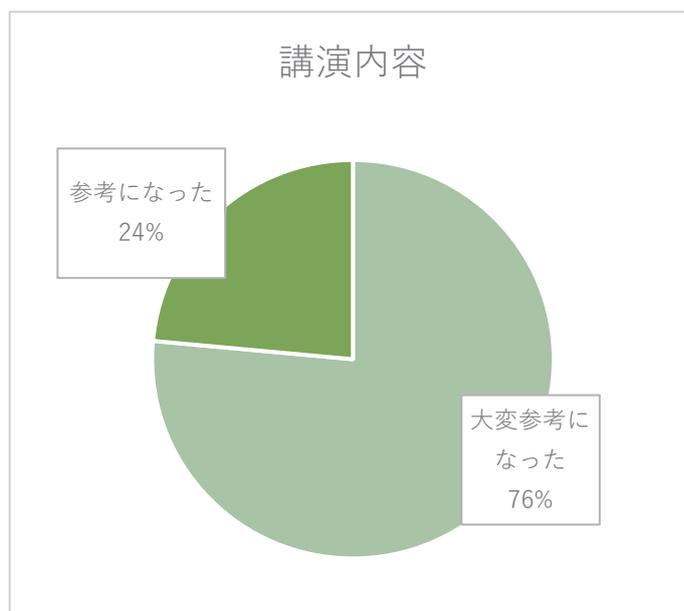
4. 高次脳機能障がいの支援経験について

支援経験について	回答数
現在、実際に支援に関わっている	11
現在は関わっていないが、支援に関わったことがある	1
これまでに支援に関わったことはないが、今後支援に関わるつもりである	5
これまでに支援に関わったことはなく、今後も関わるつもりはない	0
合計	17



5. 講演の内容について

講演内容について	回答数
大変参考になった	13
参考になった	4
普通	0
あまり参考に ならなかった	0
合計	17

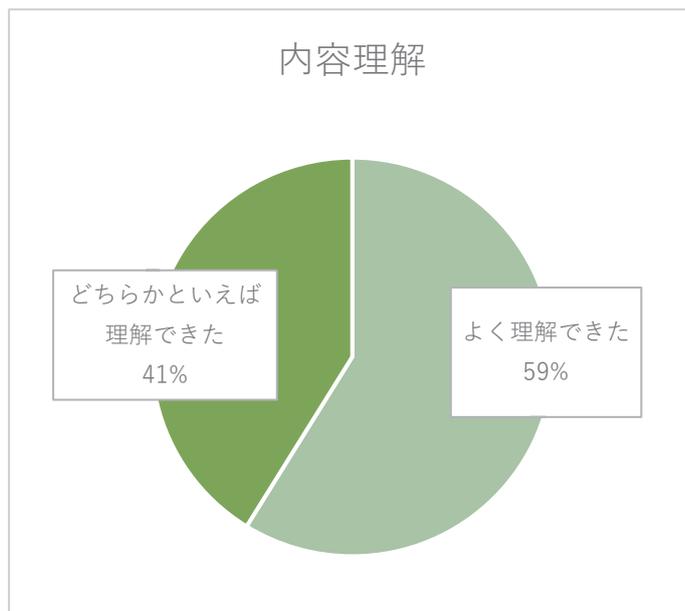


6. 講演の内容について、意見・感想・もう少し詳しく聞きたかったこと等をご記入ください。

- ・発達障がい絡めた話の部分はより参考になりました。対象の方を考えていくうえでとても参考になりました。ありがとうございました。
- ・実際の高次機能障害患者の映像もあれば、見たかったです。
- ・普段小児の高次脳機能障害に関わる機会はありません。しかし、久慈地域は医療機関が少ないため、いつ小児の高次脳機能障害に関わることになっても不思議ではないなと思っております。そうした中でこうして事前知識を得られたことはとても心強く感じています。栗原先生の豊富なお経験と実際の症例を交えた講義は本当に興味深くとても分かりやすかったです。発達障害や知的障害などとの比較も交えた説明をしていただいたのも個人的に気になるポイントを押さえてくださっていて、理解しやすかったです。楽しかったです。ありがとうございました。
- ・小児の高次脳機能障害の方がおり、どのように支援しているのか、経過などを学ぶことができました。
- ・現在関わっている患者・家族にどのようにアプローチしたら良いか大変参考になりました。
- ・子供の自殺、イジメに於ける子供の心
- ・細かいデータに基づいた支援方法でしたのでわかりやすかったです

7. 講演内容の理解について

講演内容の理解について	回答数
よく理解できた	10
どちらかといえば理解できた	7
どちらかといえば理解できなかった	0
ほとんど理解できなかった	0
合計	17



8. 今後の高次脳機能障がい研修会に対する要望について

- ・見えにくい障がいをお持ちの方が暮らしやすい生活支援されている自治体のお話を伺いたいです。
- ・岩手県は広いので冬季開催ですと地方住まいにとって集合研修は移動の点でハードルが高いです。今回のようなオンデマンド配信は非常にありがたいです。おかげさまで興味のある研修会を受講することができました。ぜひ来年度以降もこうした形態での研修会の継続をお願いしたいです。
- ・子供の自殺、イジメに於ける子供の心。

**令和5年度岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業
高次脳機能障がい者支援研修会（地域の支援者対象）開催要綱**

1 目的

「見えない障害」といわれる高次脳機能障がい者の支援に関わっている、あるいは関わる可能性のある地域の支援者を対象として開催します。本事業は岩手県の委託事業として実施するものです。

2 主催

公益財団法人いわてリハビリテーションセンター

3 日時

令和6年1月19日（金）13：00～16：00

4 会場

岩手県自治会館 3階 第1会議室 〒020-8510 盛岡市山王町4-1 TEL：019-622-6171

5 対象

県内の病院、福祉施設、相談支援事業所、市町村職員等

6 日程及び内容

時間	内容	担当
13：00～ 13：05	開会・挨拶	
13：05～ 13：30	講義 「高次脳機能障害とは？」	いわてリハビリテーションセンター 高次脳機能障害支援コーディネーター
13：30～ 13：40	休憩	
13：40～ 15：45	障害特性の理解と対応方法 ～ロールプレイ・事例検討～	栃内第二病院 リハビリテーション部 副部長 公認心理師 山舘 圭子氏
15：45～ 15：55	意見交換	
16：00	閉会	

7 参加費

研修参加費…………… 無料

8 参加申込み

別紙の参加申込書により、**令和6年1月5日(金)までに下記あてに FAX 又は郵送にてお申し込み下さい。**

いわてリハビリテーションセンター 総合相談科 〈 担当：上田・後藤 〉
〒020-0503 岩手郡雫石町七ツ森 16-243 TEL：019-692-5800 FAX：019-692-5807

令和5年度 岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業

高次脳機能障がい者支援研修会（地域の支援者対象）アンケート結果

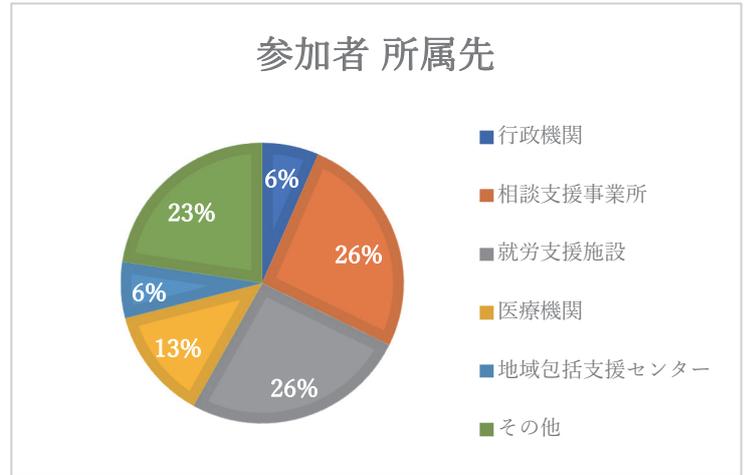
開催日：令和6年1月19日（金）

会場：岩手県自治会館 第1会議室

回答数：31

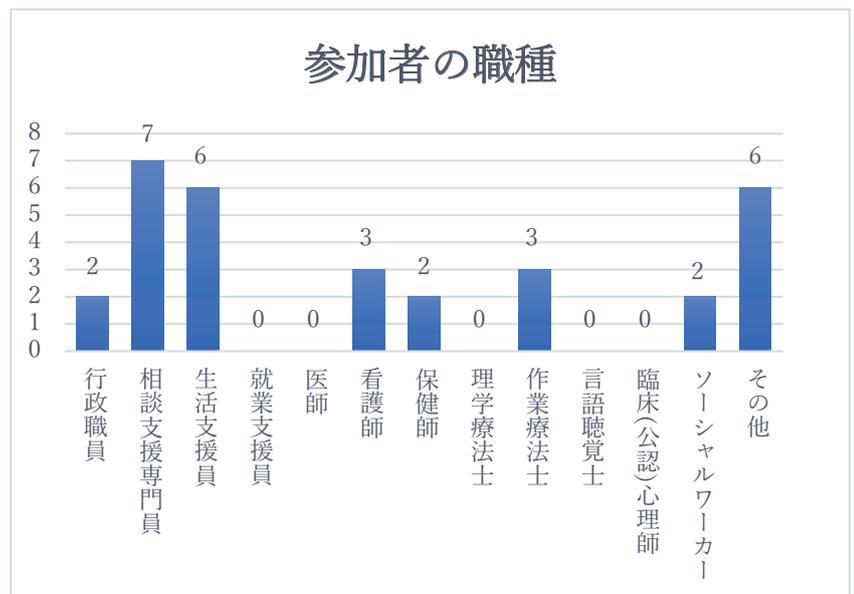
1. 参加者の所属先

所属先	回答数
医療機関	4
行政機関	2
相談支援事業所	8
就労支援施設	8
地域包括支援センター	2
その他	7
合計	31



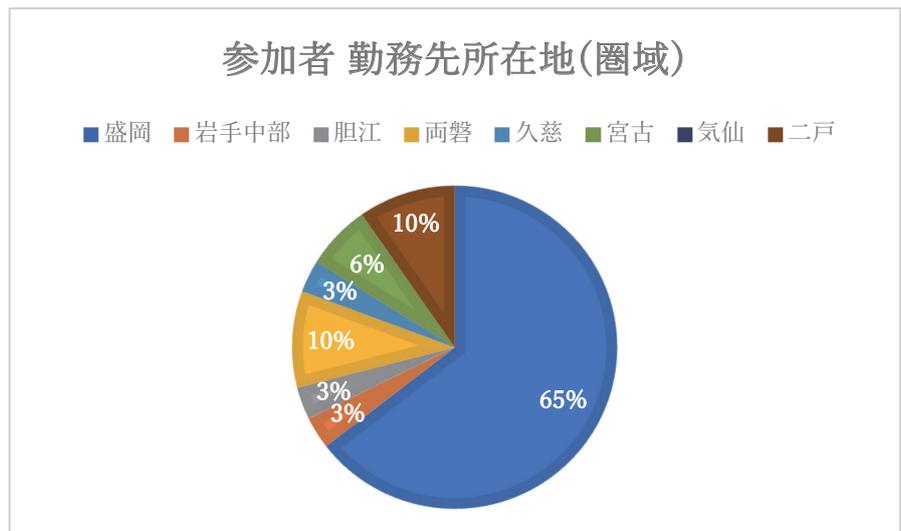
2. 参加者の職種

職種	回答数
行政職員	2
相談支援専門員	7
生活支援員	6
就業支援員	0
医師	0
看護師	3
保健師	2
理学療法士	0
作業療法士	3
言語聴覚士	0
臨床心理士・公認心理師	0
ソーシャルワーカー	2
その他	6
合計	31



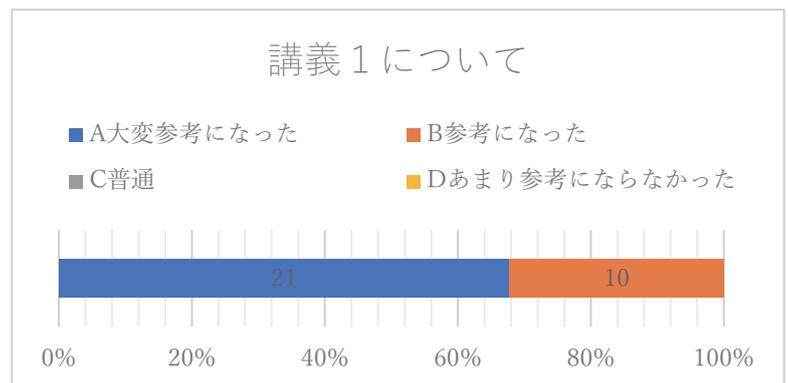
3. 参加者の勤務先所在地

圏域	回答数
盛岡	20
岩手中部	1
胆江	1
両磐	3
久慈	1
宮古	2
気仙	0
二戸	3
合計	31



4. 講義1「高次脳機能障害とは？」について

講演①について	回答数
大いに参考になった	21
参考になった	10
普通	0
参考にならなかった	0
合計	31



5. 講義1について、意見・感想、もう少し詳しく聞きたかったこと

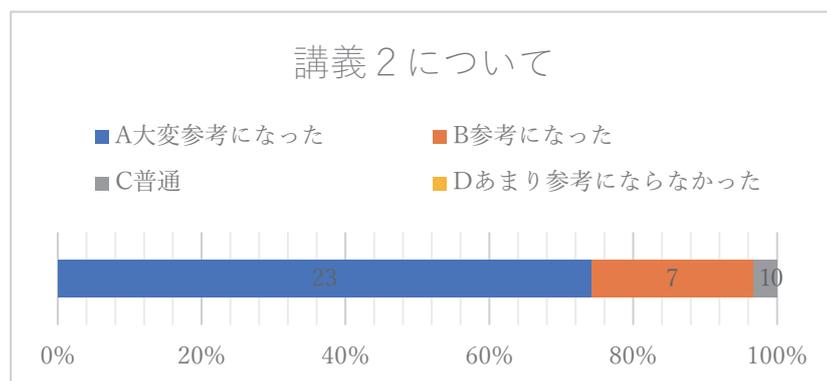
- ・高次脳機能障害について詳しく知ることができた。特性など知ることができて良かった。
- ・概要について理解できた。
- ・高次脳機能障害について様々な座学は受けているが受けるたび気が付くことがあり、これからも機会があれば学びたい。
- ・基本的なことを学び直すことができて良かったです。
- ・高次脳機能障害と元々の性格の関係がむずかしいと思います。
- ・語りくちがおだやかでわかりやすかったです。
- ・初歩的な内容だったのでもう少し掘り下げて欲しい。
- ・多職種への高次脳機能障がい入門、説明としては分かりやすいと思いました。
- ・障害特性についてもっとお話を聞きたく思いました。分かりやすい説明をありがとうございました。
- ・高次脳機能障害について理解を深めることができてよかった。
- ・この障害を持つ利用者に関わる中で、どこまでが性格でどこまでが特性なのかを理解し、支援に活かし

たいと思い、本日参加しましたが非常に収穫が大きかったです。

- ・障害について以前から知ってはいたが改めて特性について振り返るきっかけになった。
- ・法的にも他の障がいと比べて歴史が浅いことを知りおどろきました。また、障がい分野で働いていると「高次脳機能障がい」は皆知っているものだと認識していましたが一般ではそうではない事に気づかされました。
- ・基本的な知識がわかり、現在対象者はいないが、今後念頭におき活かせることは実践したい。
- ・詳しく高次脳機能障がいという障がいを理解したいと思った。
- ・岩手にどのくらいの患者数がいるのか知りたかった。症状が様々あるため、対応や支援に難しさがある事がわかり、多職種連携が必要なのだと感じた。
- ・「小児期における支援」「復職、就労移行支援」「失語症とコミュニケーション支援」の具体的な内容
- ・とても分かりやすく良かったです。
- ・高次脳機能障害について再度確認することができました。感情失禁があり、急に怒り出す、泣き出す患者がいますが、その原因や理由を知ろうとするのが大切だと改めて思いました。
- ・高次脳機能障害について学ぶことができました。古い知識を自分が持っているということが分かりました。

6. 講演2「障害特性の理解と対応方法について～ロールプレイ・事例検討～」について

講演②について	回答数
大いに参考になった	23
参考になった	7
普通	1
参考にならなかった	0
合計	31



7. 講義2について、意見・感想、もう少し詳しく聞きたかったところ

- ・対応についてどうしたら良いか困っていたので具体的に方法など知ることができて今後の仕事に活かしたいと思いました。
- ・当事者の立場も考えるきっかけになった。
- ・Aさん役の方が優しい受けこたえだったので、傾聴しやすいロールプレイだったと思う。実際は口数が少ない、怒るなどコミュニケーションが難しいことも多いと思う。基本を忘れないで対応していきたいと考える。
- ・特性についての講義は分かりやすかった。ロールプレイ、グループワークについては話す人が限定されてしまいあまり有意義ではなかった。
- ・ロールプレイを行う機会がないので貴重な経験となりました。集合研修だからこそ得られた経験だったと思います。
- ・ポジティブであることの大切さ、先生のお人柄からも良く伝わりました。ありがとうございました。

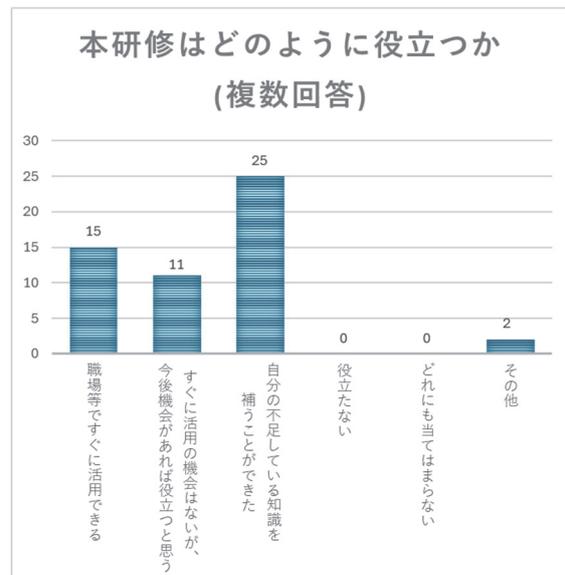
- ・話すことで頭の内容を整理できました。
- ・実際に対象者側の気持ちを考える機会になりました。
- ・ポジティブな視点、対応の発想、練習できて良かったです。
- ・行政の立場以外の立場からの考えについて、普段聞く機会がないのでとてもいい機会になった。
- ・柔軟な対応方法について学ぶことができました。様々なシチュエーションでも冷静に対応していきたいです。
- ・対応方法について良い所や上手くいった対応に注目するというのが印象的でした。職場に戻ってからも共有したいと思います。
- ・当事者の立場になって、その人がどういう思いで日々を過ごしているかを知るきっかけになった。ポジティブな視点で支援をすることの重要性は他の支援でも活かせると思った。
- ・支援する中で「できない事」に目をむけてしまう事が多いと思います。自分も冷静になり「できる事」に目をむけていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・ポジティブフィードバックやほめること、良い所を見つけて強化することなど児童のABA療育と共通する所がありおどろくと共に、同じなんだと思うと理解しやすい部分もありました。とてもわかりやすいご講義をありがとうございました。
- ・障がい者本人、面接者に分かれ体験でき、理解しようと思うが、現場にいるとそれができない時がある事を実感できた。コミュニケーションは大切です。
- ・当事者の気持ちを完全に理解することは難しいが、寄り添う気持ちを大切にすることを心がけたい。
- ・ポジティブな支援は高次脳機能障害以外にも使える支援とのこととても参考になりました。
- ・講義の内容はもちろん、ロールプレイへのアドバイスも含め本当に勉強になりました。
- ・職場にいるだけでは分からない、他職種の方と話すことができたことで、様々な視点から視ることが大切なのだと思います。
- ・他の支援者の方から多くの話をうかがえて良かったです。

8. 本研修はどのように役立ちましたか。

講演②について	回答数
職場ですぐに活用できる	15
すぐに活用の機会はないが、今後機会があれば役立つと思う	11
自分の不足している知識を補うことができた	25
役立たない	0
どれにも当てはまらない	0
その他	2

【その他】に記載があった内容

- ・正解はないと思うけど患者 or 対象者側の気持ちを考える機会となった。
- ・対象者はいないが同じような困り事があった場面の対応、対処の参考になった。



9. 研修会を企画、テーマ、内容、講師、場所、時期等の要望などについて

- ・施設内で対応に困っている場合、施設に足を運んでいただきアドバイス等いただけたら良いなと思っています。
- ・就労に対して職場や社会での捉え方、理解について
- ・症例を多く知りたいです。場所ですがもう少々駅から近ければ助かります。(できたらです。)
- ・高次脳機能障がいを持つ当事者の想い、訴え、経験などを聞かせてほしい。(複数)
- ・児童の高次脳機能障がいについても学ぶ機会があるとうれしいです。
- ・勉強になった。関心をもってもらえた事がうれしい。

岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業
じゃじゃじゃ交流会 2023 開催要綱

1 趣旨

脳梗塞や脳出血、クモ膜下出血といった脳血管障害や、交通事故などによる脳外傷、脳炎、低酸素脳症などで脳を損傷し、怒りっぽくなった、物覚えが悪くなった、何かにこだわり過ぎるようになったなど、今までに見られなかった症状が現れることがあります。これを「高次脳機能障害」といいます。高次脳機能障がいの多くは外見からは分かりにくく、本人も自覚していないことが多く、支援者からも理解されにくい状況にあります。この交流会は広く多くの方々に高次脳機能障がいに関心を持ってもらうとともに、高次脳機能障がい当事者及び家族の交流を図ることを目的に開催します。

2 主催

いわてリハビリテーションセンター、いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴ

3 日時

令和5年9月9日（土）13：00～16：00

4 会場

プラザおでって
岩手県盛岡市中ノ橋通一丁目1番10号 TEL 019-604-3300

5 定員

60名

6 プログラム ※状況に応じて開催形式・内容等変更する可能性があります。

・第1部(13:15-13:45)

講演「高次脳機能障害 戦略的当事者について」 講師 文筆家 鈴木大介氏

・第2部(14：00-14：30)

鈴木大介氏とピアサポーター阿部類氏の対談 ～皆様から事前にいただいた質問の内容を中心に～

・第3部(14：45-15：45)

グループワーク

～高次脳機能障害に関するサポート、制度、仕組みなど「あったら良いのにな・・・」ということを

“ハンカチ”に書き、皆様と共有できればと思います～

7 参加費

無料

8 参加対象

- ・高次脳機能障がい者及び家族
- ・医療、福祉、行政関係者等高次脳機能障がいの支援者及び県民

9 参加申込みについて

参加を希望する場合は、8/25（金）までに下記あてにメール又はFAX、電話にてお申し込み下さい。

〒020-0503 岩手郡雫石町七ツ森 16 - 243 いわてリハビリテーションセンター 担当（上田・後藤）

TEL：019-692-5800 FAX：019-692-5807 E-mail：koujinou-shien-reha@irc.or.jp

※お申込み受け付けができない場合のみご連絡致します。

※お申し込み後に参加ができなくなった際には、8月31日までに担当へご連絡ください。

令和5年度当事者企画イベント じゃじゃじゃ交流会2023 アンケート結果

日時：令和5年9月9日(土)

13：00～16：00

場所：プラザおでって（盛岡市）

参加者：66名（スタッフ等除く） 回収数：54 回収率：81%

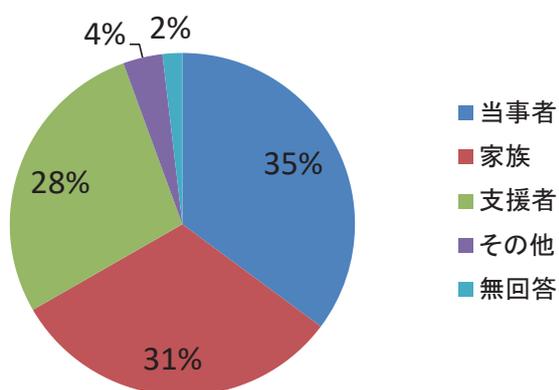
○参加者の内訳(単位：人)

当事者	家族	支援者	その他	無回答
19	17	15	2	1

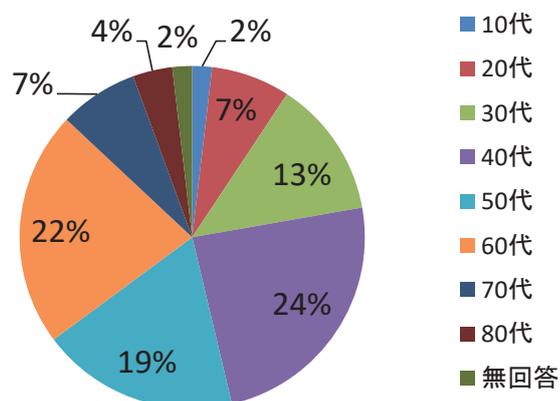
○参加者の年代(単位：人)

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	無回答
1	4	7	13	10	12	4	2	1

参加者の内訳

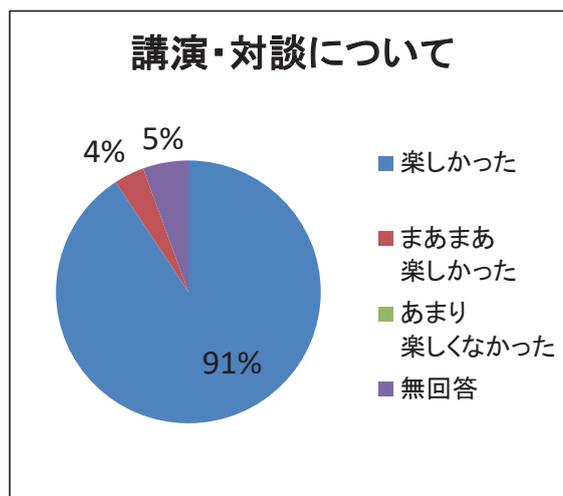


参加者の年代



○講演・対談について(単位：人)

楽しかった	まあまあ楽しかった	あまり楽しくなかった	無回答
49	2	0	3



【感想・印象に残った場面・改善点など】

この障害になってから、ずっと影響を受けてきた、私のバイブル的な本の作者の鈴木さんにお会いでき、実際の講演は始終共感し、感動した。隣で真剣にメモを取る娘の姿も嬉しかった。さらに、今回阿部さんによって、「ピアサポーター」という存在を初めて知り、ピアサポートに興味を持った。

鈴木先生の講演会を通して、高次脳機能障害とは何なのか、具体的にどのような症状が出るのかなど今まであまり知らなかったことを知ることができた。母がこの障害で怒っている症状について私は当事者ではないから共感することはしてあげられないけど、理解することはできた。高次脳機能障害について知ることができてよかった。

もっと沢山ききたかったです。

大介さんのひと言楽になることを取るか、回避を取るかの選択で進む方向が異なる。

ある程度は自分の障害について理解していたつもりでしたが、改めて（資料などで）言語化していただけたことでより深く落とし込むことができました。

鈴木さんが障がいを受け入れていないと言っていた事、受け入れなくてもいいよと言ってあげられます。

とても楽しみにして参りました。

当事者の理解と他者の理解とのバランスも大切なことがわかってよかった。

自分のことだけではなく家族、回りの人のこともよく承知していると感じました。

鈴木大介氏の話は健常者から見る視点もあり、「わからない」をわかるように説明くださり勉強になりました。阿部類氏の質問に対する回答も同じ症状の方、支援者にも理解する糸口を教えていただきました。

とても理解しやすく、支援者として今後、ご本人様家族様と関わっていく上での「相手を知る」ことから、今回参加させていただきました。鈴木氏の声を聴き、頭の中で想像でき、当事者にはなれませんがずっと言葉が入ってきました。今後も鈴木氏の講話を参考にかかわっていきたいと思います。ありがとうございました。

具体的な話。当事者目線のみでなくて話してもらえてよかった。

トライ&エラー経験。すべてのお話を聞くことができて本当に良かったです。

全部いいお話でした。感謝。

当事者、家族、支援者、さまざまなかかわりを持つこと、とても時間がかかったこと等。

高次脳機能障害はここで症状が違うことが本人にとっても家族にとっても大変であることが再確認できました。

表面からは分かりにくい、苦労や本人が言われて嫌なことを聞いて良かったです。

失敗をくりかえしながら障がいを受けいれていくというところ。しっかり理解して支えていきたいと思った。

とても勉強になることが多く支援にうまくつなげていきたいと思いました。

大介さんの本を読んだことがあり、今回参加しました。障がいがあつてわかりあえることは難しいかもしれないけれど、分かろうとする努力が大事なんだと思いました。

パンフレットがカラーで見やすかった。字も大きくて良かった。

今、就職を目標にしていますが、お話の中で職に就くことがリハビリになるということをお聞きしてがんばろうと思いました。

話を聞いたことがなかった大介さん、話を聞いたことがある類さん、2人とも学ぶことが多い内容をたくさん話していてとても充実していた。

本当に当事者？と思うようでした。見ると聞くとは大違いとでもいいでしょうか。

鈴木大介さんが高次脳機能障害であることにおどろきました。「すぐ脳がつかいものにならなくなる」におどろきました。阿部類さんも新聞記事で見た通りでびっくりしました。

言葉（声）かけ1つでも、受け手の気持ちに違いがあることに気づかされました。

「戦略的当事者」よい戦略だと思いました。高次脳の人ができそうでできないことだとも思いました。

同じ高次脳機能障害の方のお話を聞く機会があまりないのでとても勉強になりました。ありがとうございました。

鈴木さんと阿部さんの対談時間がもっと長くても良かったと思います。阿部さんの体験談はとても勉強になります。

阿部類さんのお話。やりはじめるととまらなくなるお話。

自分の障害を理解、整理し、皆さんに報告できたことはすごいことだと思った。健常者が障害者を理解できるのに＝誤解される、できない→説明がいちいちめんどくさいので伝えない方がいいと考える。講演自体はとても受け入れやすくよかったです。

家族からの疑問も2人にきいてほしかった。

戦略的当事者という内容はとてもはげまされるものでした。

家族の方々と支え合って更に皆で支え合って。具体的な体験がとてもわかりやすかったです。

私自身、聞き取れないところがありますので話されている内容が分かりかねました。

当事者のお話を直接伺えたことが大きな成果です。

当事者の大変さの感覚、コロナワクチン副反応の状態が私にはわかりやすかった。その状態で常に暮らすのは本当につらいです。

高次脳機能障がい者といえど症状や程度は様々であるので、鈴木氏と阿部氏の対談を聞いたのはとても参考になった。障害年金や手帳の受給手続きは、基本的なことだけれどとても重要だと感じた。年金や手帳も貰っていないグレーゾーンの方々の支援をどうしたらいいか・・・と思いました。

色々と思うことが多く、言葉にならないです。

何故直木賞になるように書いてくださいよ。人それぞれの違いの中での対応の仕方、理解してもらえない悔しさがわかります。あんなふうにいっぱい書いているのなら僕に書く項目があるのか。夢物語から、自分半生涯を書きます。EとFどっちが長くて短かったかな。ありがとう。

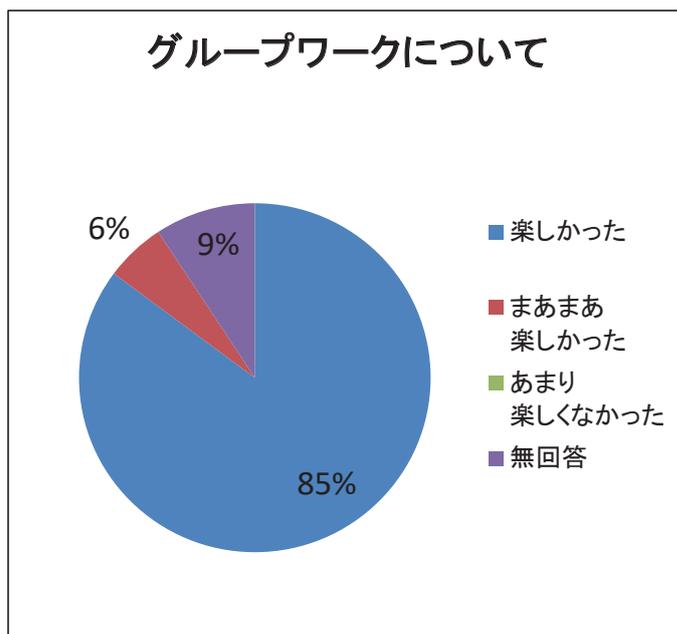
とてもわかりやすかった。大介氏の「みみ栓」「タイマー」の話、類氏の「話の中で迷子になる」。ここまでたくさんのおきりめや対策をたてていても起きる日常のハプニングを共有し、症状と一緒に体験でき貴重だった。隠さず語ってくださる姿に今後どういった関わりがその人が望んでいるか、接しながら探して行きたいと思った。

第2部は2人の対談よりも、家族や支援者を加えていたらよかったのでは？

多角的な視点で具体的な事例や表現で、経験に基づく内容で非常に理解しやすかった。素晴らしいお話でした。ありがとうございました。

○「グループワーク」について(単位：人)

楽しかった	まあまあ 楽しかった	あまり 楽しくなかった	無回答
46	3	0	5



【感想・印象に残った場面・改善点など】

当事者同士ということもあり、皆さんのお話、内容はとても興味がわいた。ただし、作業時間がたりない。やはり、聞く・(メモをする)書くを同時進行でできないので、メモしたい、話を聞きたい、自分の考えをまとめたい・・・→考えていた言葉が消えていく。×
※偶然にも、グループワーク中に、自分にとって新たな「要 環境調整」を知る。・・・テーブルの下敷き用に用意された新聞の文字(文字が一定の同じ向きじゃない)の直視により脳内パニックに。予防のために天井を見るが、今度は照明で再パニック状態に。→対処法 目を閉じて深呼吸、帽子、ポプリ(香り効果)で負担軽減、回復。新たに体験できた「不自由」だった。(新たな苦手なこと、対策を知れた。○)

たくさんの当事者の方々とグループワークをする中で、母の腕を組んで歩くといった、自分が普段何気なくとっている行動が特効薬になっていたことを知ることができた。当事者の方が何らかの原因でパニックになったときに、深呼吸をしたり、自分の好きなにおいをかいだり、視界の半分を遮断したりなどそれぞれ自分にあった対処法があり、すごいと思った。

みんなと話せて楽しかったです。

自身の経験を1つの事例として同じグループの方に紹介できてよかったです。

当事者同士、家族同士の交流がとてもよかった。

岩手もやっと少しずつ高次脳機能障害が認知されてきたと思ったらお隣の青森はまだまだと聞いて驚いた。花巻もまだまだとも聞いてさらに驚いた。まだまだ一部??これからなのですね。まずは自分、身の回りから・・・!

出会いを大事にしたい

思っていたことを互いにお話しできて楽しかった。

当事者さんのお話は、本当に専門書を読むよりずっと理解しましたが、皆さんの生活やご苦労されたこと、今現在の仕事のこと、当事者さんのそれぞれの物語を伺って知ることが一番大事と思っています。

当事者が苦しんでいること、望んでいること、たくさん聞くことができて良かったです。

いろいろはなしができてよかった。

遠くに来ましたが、近くの方（住んでる場所）と知り合えてほっとしました。安心感。心のモヤモヤが晴れた。夫も、体調の方が心配だったが嬉しいようだ。参加できてよかった。

いろいろな方と知り合えてよかった。

思っていた以上に話ができた。

家族の方から公的な支援がなされていないことについての困りがあることを聞きました。地域の地域差がない社会が必要だと思います。

いろんな立場の方と一緒に話ができて良かったです。

ハンカチに何を書いたら良いかちょっと悩んだ。

他事業の方々と交流できてよかった。

話したことがない人と交流して、初めて知ることがたくさんあってよかった。

自分のことをあからさまに話せる当事者はすばらしい。幸多くあれ。

同じテーブルの人々と話をして意見交換して楽しかった。ハンカチにメッセージを書きました。

当事者、家族、支援差、それぞれの立場、考え方など聞くことができました。

当事者、家族の方の想いを聞いた。

黄色いハンカチに当事者の方がとても前向きな言葉を大きく書かれていてすばらしいなと思いました。

他の方のいろいろな話を聞けました。

他の方からの話を聞いて参考になった。

文字と布が滑って書きにくかった。

他の参加者さまとこれからのことを考えることに。住所をお聞きしてお手紙を出すことに。
「とっておきの音楽祭」10/1（土）の案内を送ります。

最初は緊張しましたが自己紹介後はすぐうちとけて楽しくお話しできました。

当事者、ご家族、それぞれに色々な思い、状況がありますね。色々お話が聞いてよかったです。

高次脳機能障がいはいつ誰がなってもおかしくない病気だと感じました。障害に理解があり優しい世の中になるといいなと思いました。

様々な立場の方からのお話を聞けたり等とっても有意義なお時間をすごさせて頂きました。

人を知る。自分にあてはめて自分に足りないことが知ることができる。皆にあえる。聞ける。これが自分の人生なんだと！生きた証を証明できる。

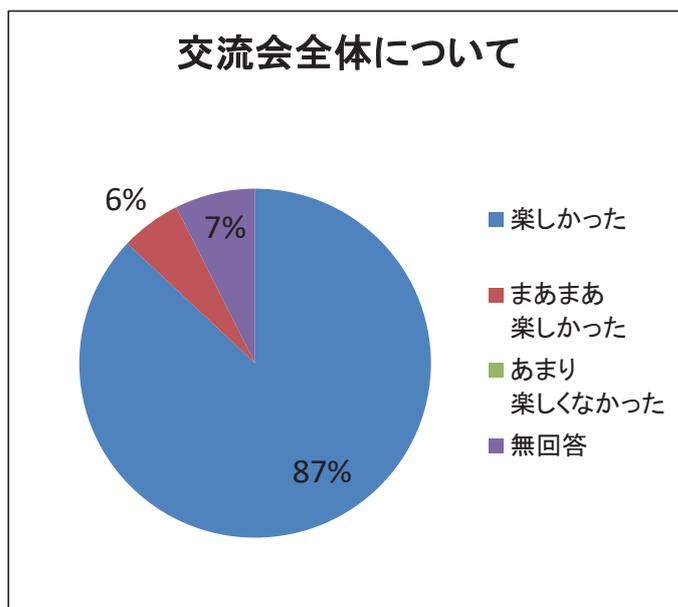
当事者と当事者家族の方のお話を聞かせて頂き貴重でした。

自己紹介の後、もう少し話し合いをする場面があってもよかったのでは。

限られた時間を2分で区切ってくださり回しやすかった。

○「交流会全体」について(単位：人)

楽しかった	まあまあ楽しかった	あまり楽しくなかった	無回答
47	3	0	4



【感想・次回の要望など】

色々感じることはあったが、1つは、鈴木さんの「妻の手」は私にとっては「娘の腕」だと知る。今まで、かなり効果的な 特効薬 だったと認識！

そして、気付いてくれるのを待つ、どうせ分かってもらえないと諦めるのではなく、自分から「伝えること」をあきらめない！

今回高1の娘と参加し、正直反応が不安だったが、娘の言葉に心打たれた。「自分は当事者じゃなくても、身近に当事者がいるからこそできること、役に立てることがあるはず！今までよりも、福祉関係の仕事に就きたいと思った！」今回の参加で、私の障害を、改めて深く知る機会となり、私自身も「私は1人じゃない！」と改めて勇気をもらった、忘れられない1日となりました。ありがとうございました。

P.S.鈴木先生に一筆いただいた、「楽になることだけを、あきらめずに！」「【この脳でいいじゃん】と思える日、必ず来る！」信じて、諦めません。

自分は当事者ではないけれど、自分の身近に当事者がいるからこそ何かできること、役に立てることがあるはずだと思った。今回の講演会を通し、自分の将来の夢を広げることができたし、これからは母の大変さを否定するのではなく共感し助けることを積極的にしていきたいと思った。

とてもよかったです。

「『当事者』同士だからこそその話しやすさがあって非常によかったです。

鈴木さん、阿部さんありがとうございました。またお話を聞くことができればはげみになります。

久しぶりの開催、とても実りある内容でした。準備していただいた皆様に感謝です。ありがとうございました。

体を動かす（ちょっとしたスポーツ）ことがあると利用者さんも気楽に参加しやすいかな・・・と思います。

またピアサポートを受講したいと思います。交流会参加して本当によかったです。ありがとうございました。

本人様、Fa、支援者それぞれ思い思いでこの講習会にのぞまれ、考えさせられました。本で勉強するより実際お会いできて勉強、学ばせていただきました、貴重な時間でした。

いろんな圏域でやってもらえるようなので良いと思う。

楽しかったです。

コロナから初めての開催だったところで初めて参加できましたが、今時期で、内容も場所もとてもいいと思います。

多くの方と会話ができて良かったと思う。

当事者と家族とうまくいってなくて、困ったこと、相談したいことがたくさんあり、どこに相談したらよいか困ってます。

アダージョで自立訓練してるしリハセンで診察してるからおまちしてます！

対談は続けてほしいと思います。

車の停めれる場所のほうがあればありがたいです。

盛岡市で受けられる支援はどんな支援があるのか等情報を教えていただけると嬉しいです。

もう少し忙しくない時期だともっときやすかったと思います。

高次脳機能障害に関連した映画の上映（あれば）時期は9月頃、盛岡。カルタ、神経衰弱、脳トレ大会 キオクカ、想像力、創造→障害ある人にとって苦手なことの競技会。

天気がすっきりしている時期に、あまりこの交流会があることを知らない、たどり着くためにもっと早めの時期に岩手県の広報か市町村の広報などで知れる、障がい名を知れる講演会とグループワークは良い組み合わせでした。

支えあいの機会をありがとうございました。

初めてのことでしたので把握できないところがありました。友の会の存在すら知りませんでした。これから積極的に参加するようにしたいです。

世の中には色々な組織・期間があると実感しました。マスク着用のため、講演者の声が聞きづらいときがありました。マスク着用なので仕方ないと納得しましたが・・・。

仲間をつくる、みつける、すてきな場所ですね。参加できてよかったです。

普段は高齢者対応がメインの仕事ですが、障害の方々の人生の一端を見られたような感じがして、障害→介護に移行する方の支援の一助になれば良いと思いました。

毎度こういった場を作って頂いて本当にありがたく感謝しています。

皆にあえる生きている証である。たとえなにがあっても、だから嬉しい。障害の程度のちがいはあれども日常のあった出来事を日記にすることも一つの思い出になる。それが自分のリハビリとなっている。とにかくこれからもいろいろな話を聞かせてください。アンケートの回答になっておりませんが、これが一番けっしてはずかしくない。表へ出て、皆であいましょ！

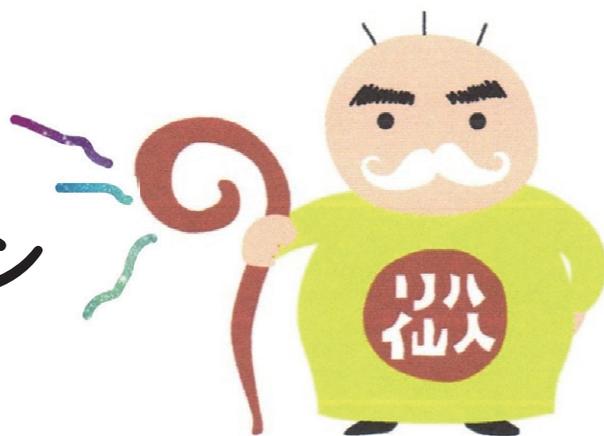
来年の内容は国の進み方にもよるが、高次脳の基本法に関する説明等も良いのでは。

貴重な機会、仕事が休めますように！！本当に大介さんのお話を拝聴できてよかったです！！ありがとうございました。

高次脳機能障がい当事者のための

オンラインサロン

(ZOOM を使用します)



当事者同士の交流を目的としています。

今年度は基本的には毎月第4土曜日の10:30~11:30に開催予定です。

開催日時、申込方法などの詳細については下記のとおりです。

感染症等の状況に応じて中止する場合があります。その都度に皆様にご案内いたします。

日時

※いずれも 10:30~11:30

6月24日(土)

7月22日(土)

8月26日(土)

9月23日(土)

11月4日(土)

11月25日(土)

12月23日(土)

1月27日(土)

2月24日(土)

3月23日(土)

方法

○メールまたは電話でお申込みください。

・Mail:

koujinou-shien-reha@irc.or.jp

・Tel:

019-692-5800 (担当:後藤・上田)

○事前練習について

ZOOMの接続に不安のある方は事前に練習
することができます。

希望の日時をメールまたは電話でお知らせ
ください。

練習は平日9:00-17:00までの対応と
させていただきます。

ご希望に添えない場合もございますので
ご了承ください。

いわてリハビリテーションセンター 高次脳機能障害担当 後藤・上田

〒020-0503 岩手郡雫石町セツ森 16-243

TEL:019-692-5800 FAX:019-692-5807

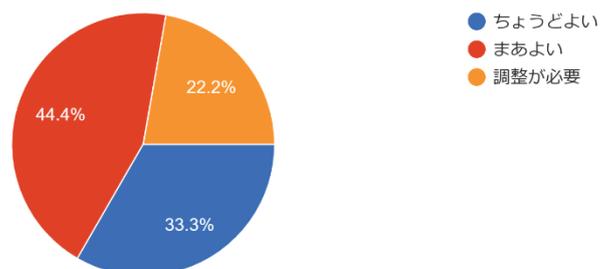
令和5年度 高次脳機能障がい当事者のためのオンラインサロン
アンケート結果

回答数：9

●質問1

開催時期・時間帯について ※令和5年度は毎月第4土曜日の10：30～11：30に開催。

開催時期・時間について	回答数
ちょうどよい	3
まあよい	4
調整が必要	2



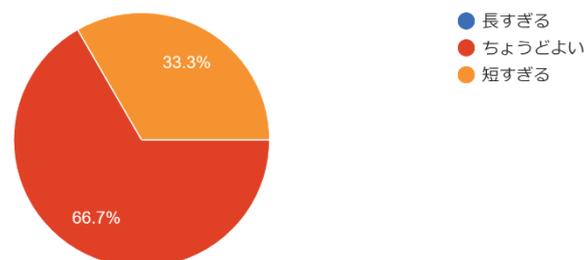
<自由記述>

- ・この日の土曜日はZOOMに予定しているから 予定が重ならない限り！参加してみんなの顔を見ることも重要ですから！
- ・午後のほうが良い場合もある。
- ・土曜日だと、午後とかのほうが参加しやすい。
- ・夕方の時間帯の方が参加しやすい。

●質問2

オンラインサロンの時間設定はいかがでしたか？ ※令和5年度は10：30～11：30の1時間。

時間設定について	回答数
長すぎる	0
ちょうどよい	6
短すぎる	3



<自由記述>

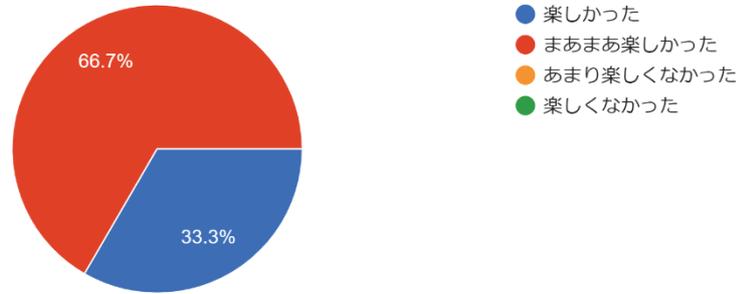
- ・最近話す内容も多くなったりしてちょっと時間が足りないかなと思います。
- ・段々話が長くなってきたからもう少し長くてもいいかも。
- ・セミナーに参加していて！その場において！聞いている時とは異なるから！それでも！話すことでのつながりも聞いてもらえている！このありがたい感謝があるから！あともう少し時間を伸ばしても15分かな！
- ・内容によって長短だと思うので、一概には言えない。

●質問3

オンラインサロンの内容はいかがでしたか？

※令和5年度は「自己紹介」「この1か月どのように過ごしたか」「これから1か月どのように過ごす予定か」などの他、「職場での困り事」「怒りのコントロール方法」「高次脳機能障がいをみんなに知って貰うにはどうしたら良いか」など当事者さんからトークテーマを提案していただく場面もありました。

内容について	回答数
楽しかった	3
まあまあ楽しかった	6
あまり楽しくなかった	0
楽しくなかった	0



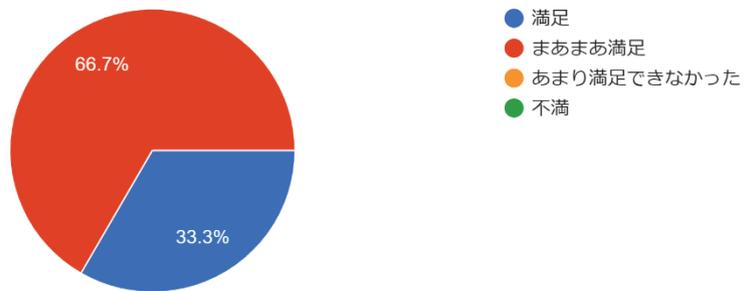
<自由記述>

- ・こんな物を作ったとか書いたとかやって見たことがあったら見せてね！自分は写真と絵を見せたからね！
- ・障害➡高次脳機能障害と加齢に伴う就職、仕事に求人について。
- ・参加者が増えると良いですね。
- ・講演会とかオンラインであると参加しやすいかも。

●質問4

オンラインサロン全体を通しての感想や来年度の実施に向けてご要望をご記入ください。

感想について	回答数
満足	3
まあまあ満足	6
あまり満足できなかった	0
不満	0



<自由記述>

- ・活動を活発にし始めたところ都合が合わず参加できない時もありましたが、様々な事を知ることが出来良いサロンでした。自分から皆さんに質問させて頂き皆さんからの意見やアドバイスを頂きとてもありがたかったです。今後も続けて欲しいです。このような企画して下さりありがとうございました。
- ・初めてですからどうしたらいいかなと。よくわからずでしたから！でもみんなは！話をきいてくれました。感謝です！ありがとうございます
- ・お世話になります。ここのところ、時間に折り合いが合わず参加できずすみません。色々と主宰側の方は思考を凝らしているのかもしれませんが、その場に居合わせず申し訳ないです。
- ・色々な当事者の話を聞いてみたいです。
- ・テーマありきのフリートークがあっても良いかな。

目次

- 1. じゃじゃじゃ交流会 2023
について
- 2. オンラインサロンについて
- 3. 編集後記

新型コロナウイルスの影響で3年程実施できていなかった「じゃじゃじゃ交流会」ですが、今年度から復活予定です！

高次脳機能障がい当事者さんのお話を聞いたり、色々な“想い”を共有できる内容を企画しました！会場でお会いできることを楽しみにしております！

1. “じゃじゃじゃ交流会 2023” について

“じゃじゃじゃ交流会”とは、高次脳機能障がい当事者、家族、支援者が交流できる機会として開催するものです。今回は文筆家として活躍している鈴木大介氏や岩手県内でピアサポーターとしても活躍している阿部類氏に講演や対談をしていただきます。

その後、3つの部屋に分かれてグループワークとして、高次脳機能障がいについて、制度、支援、モノ・コトなど「こういうのがあったら良いのにな・・・」という“想い”を“ハンカチ”に書き、みんなで共有します！研修会の概要は以下のとおりです。

- 日時 令和5年9月9日(土) 13:00~16:00
- 場所 プラザおでって 3階 おでってホール、会議室
- 内容

第1部(13:15-13:45)

講演「高次脳機能障害 戦略的当事者について」

講師 鈴木大介氏

第2部(14:00-14:30)

鈴木大介氏とピアサポーター阿部類氏の対談

～皆様から事前にいただいた質問の内容を中心に～

第3部(14:45-15:45)

グループワーク

詳細については別紙チラシをご覧ください！

2. 高次脳機能障がい当事者のためのオンラインサロンについて

昨年度から実施している“オンラインサロン”について、今年度は毎月第4土曜日に実施しております。当センターの外来に通院している20代～60代の方々を中心にご参加いただいております。対面で実施できないもどかしさはありませんが、遠方の方とも交流できるのはオンラインの良いところだなあと感じています。

また、初めて参加する方でも交流しやすいよう下記のような“トークテーマ”を設けお話しいただいております。

<トークテーマの例>

- ・この1ヶ月の中で自分なりに「頑張った!」と思うことは?
- ・「大変だったなー」と思ったことは?
- ・皆さんに紹介したいモノ・コト

“話だけでも聞いてみたい”という方は、画面・音声をオフにして参加してもOKです。

「開催日時」「参加方法」など記載したチラシも添付しております。詳しく聞いてみたいという方は総合相談科 後藤までご連絡ください。よろしくお願いいたします。

3. 編集後記

今回のメールニュースでは、“じゃじゃじゃ交流会 2023”と“高次脳機能障がい者のためのオンラインサロン”についてご案内させていただきました。新型コロナウイルスの影響でオンラインを活用する機会はまだまだ多いですが、交流会のように少しずつ対面形式の開催も検討できるようになってきました。感染症の状況次第では交流会の形式を変更する可能性もありますが、皆様と直接お会いできることを願っております。

今年も暑い日が続いておりますが、水分を摂取し、しっかりとした休息をとりながら何とか乗り切りたいですね!

ご意見ご感想はこちらまで アドレス koujinou-shien-reha@irc.or.jp
メールニュース担当(吉田賢、菅原、藤根、後藤)

目次

- 1. じゃじゃじゃ交流会 2023
の報告
- 2. 研修会情報
- 3. 編集後記

1. “じゃじゃじゃ交流会 2023” の報告

“じゃじゃじゃ交流会 2023” が9月9日(土)に行われました。いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴと共に開催し、当事者27名、家族18名、支援者26名の計71名の方々にご参加いただきました。今回は、第1部に文筆家・当事者の鈴木大介氏による「戦略的当事者とは？」というテーマでの講演、第2部に鈴木氏とピアサーポーターとしても活動している阿部類氏との対談、第3部にグループワークとして黄色いハンカチに皆様の希望や願いを記載していただきました。

対面で久しぶりにお会いする方も多く、とても楽しい時間となりました。鈴木氏、阿部氏のお話しをお聞きし、支援者としては当事者やご家族が語れる場をつくる支援がとても大事なのだと学ばせていただきました。皆様からも感想を頂いておりますので一部ご紹介いたします。

“鈴木先生の講演会を通して、高次脳機能障がいとは何なのか、具体的にどのような症状が出るのかなど今まであまり知らなかったことを知ることができた。母がこの障がいで起こっている症状について私は当事者ではないから共感することはしてあげられないけど、理解することはできた。高次脳機能障がいについて知ることができてよかった。”

“大介さんの本を読んだことがあり、今回参加しました。障がいがあってわかりあえることは難しいかもしれないけれど、分かろうとする努力が大事なんだと思いました。”

“鈴木さんと阿部さんの対談時間がもっと長くても良かったと思います。阿部さんの体験談はとても勉強になります。”

“とても分かりやすかった。大介氏の「みみ栓」「タイマー」の話、類氏の「話の中で迷子になる」。ここまでたくさんのあきらめや対策をたてていても起きる日常のハプニングを共有し、症状と一緒に体験でき貴重だった。隠さず語ってくださる姿に今後どういった関わりがその人が望んでいるか、接しながら探して行きたいと思った。”

来年度も楽しく参加できる交流会を企画いたします！



2. 研修会情報

〔高次脳機能障がい者支援研修会のご案内〕

(医師及びコメディカル対象)

◎テーマ「小児の高次脳機能障害と対応方法について」

・講師：神奈川県総合リハビリテーションセンター

小児科 栗原まな 先生

・座長：岩手医科大学附属病院 病院長 小笠原 邦昭 先生

◎令和6年1月15日(月)～令和6年1月28日(日)

※オンデマンド配信予定

〔地域の支援者対象〕

◎日時：令和6年1月19日(金)13:00～16:00

◎場所：岩手県自治会館 3階 第1会議室

◎内容

13:00～13:05 開会・挨拶

13:05～13:30 講義：高次脳機能障がいとは？

講師：いわてリハビリテーションセンター

高次脳機能障害支援コーディネーター

13:40～15:45 講義：障害特性の理解と対応方法～ロールプレイ・事例検討～

講師：栃内第二病院 リハビリテーション部 副部長

公認心理師 山舘 圭子氏

〔いわて脳損傷リハビリテーション講習会〕

◎令和5年11月25日(土) 14:00～15:00 岩手県自治会館

◎令和6年 1月14日(日) 13:30～16:00 一関文化センター

※講習会の詳細は別紙をご参照ください。

各研修のお申し込みについて、内容をご確認いただき、必要事項をご記入の上、お申し込みくださるようお願いいたします。

3. 編集後記

今回のメールニュースでは、“じゃじゃじゃ交流会 2023”の報告と“研修会情報”についてご案内させていただきました。“じゃじゃじゃ交流会”は盛岡圏域に限らず、県北・沿岸・県南地域でも開催できればと考えておりますので、「ここでやって欲しい！」という方がいらっしゃいましたらぜひぜひお声掛けください！段々と寒くなってきましたのでお体を温かくしてお過ごしください。

ご意見ご感想はこちらまで アドレス koujinnou-shien-reha@irc.or.jp

メールニュース担当（吉田賢、菅原、後藤）

高次脳機能障がいカルタ 無料配布のお知らせ

当センターでは、岩手県高次脳機能障がい支援普及事業の一環として、当事者・家族の思いを50音にのせた「高次脳機能障がいカルタ」を作成致しました。

読み札作成にはいわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴにご協力いただき、当事者・家族の皆さんの共感が得られるような内容になっています。

この度高次脳機能障がいの支援普及のため、ご希望の方に数量限定で無料配布を行うこととしました。リハビリやレクリエーションの他、当事者・家族会、障がいについての学習等にご活用いただき、この障がいについての理解を深めていただけると幸いです。



料 金： 無 料

送 料： 申込者の負担
(着払いとなります)

〈お申し込み方法〉

①ホームページ

いわてリハビリテーションセンター
高次脳機能障がい者支援普及事業のホームページ
(<http://www.irc.or.jp/koujinoukinoushougai/index.html>)
にアクセスし、申し込みフォームに必要事項をご記入の上お申し込みください。



②FAXまたは郵送

裏面の申し込み用紙に必要事項をご記入の上、FAXまたは郵送でお申し込みください。

※無断複製、転売の禁止、送料負担についての同意がない場合はお申込みいただけません。

【お問い合わせ】

〒020-0503

岩手県岩手郡雫石町七ツ森16番地243

いわてリハビリテーションセンター 高次脳機能障がい担当

TEL：019-692-5800 FAX：019-692-5807

MAIL：koujinou-shien-reha@irc.or.jp



いわてリハビリテーションセンター 行き

FAX 019-692-5807

高次脳機能障がいカルタ 申込用紙

- ・ 下記項目を全てご記入ください。
- ・ 注意事項をご確認の上、チェックを入れてください。
チェックがない場合はお申し込みを受け付けできません。

個人 団体

所属（団体の方のみ）	
部署（団体の方のみ）	
フリガナ	
氏名	
送付先住所 ※岩手県外の方は都道府県 からご記入ください。	〒 ー
電話番号	
使用目的 ※当てはまる項目全てに チェックを入れてください	<input type="checkbox"/> リハビリテーション <input type="checkbox"/> レクリエーション <input type="checkbox"/> 学習用 <input type="checkbox"/> 普及活動 <input type="checkbox"/> その他（ ）

【注意事項】

- ・ 申込み数が上限に達した場合は、キャンセルと致します。
- ・ 著作権はいわてリハビリテーションセンターに寄与します。
- ・ 無断複製、転売は禁止と致します。
- ・ 送料は着払いでお申込いただいた方のご負担となります。

全ての注意事項に同意しました。

Ⅲ 岩手県内の支援拠点機関一覧等

1. 岩手県支援拠点機関

名 称	所在地	電話番号
いわてリハビリテーションセンター	雫石町七ツ森 16-243	019-692-5800

2. 地域支援拠点機関（令和5年度）

圏域	名 称	所在地	電話番号
宮古	相談支援事業所れいんぼー	宮古市緑ヶ丘 2-3	0193-64-7878
気仙	地域活動支援センター星雲 相談室	大船渡市盛町字東町 11-12	0192-21-1305
二戸	地域生活支援センター ・カシオペア	二戸市石切所字川原 46-1	0195-23-6608
久慈	地域生活支援センター久慈	久慈市門前第1地割 151-1	0194-52-8177
釜石・ 大槌	地域活動支援センター釜石	釜石市定内町一丁目 8-10	0193-21-1156
胆江	金ヶ崎町障がい者基幹相談 支援センター	金ヶ崎町西根南羽沢 43 (金ヶ崎町福祉センター内)	0197-44-6060
	奥州市基幹相談支援センター	奥州市水沢横町 2-1 メイプル地下1階	0197-34-2160
盛岡	いわて高次脳機能障害友の会 イーハトーヴ	盛岡市中野一丁目 1-26	019-652-1137
岩手 中部	いわて高次脳機能障害友の会 イーハトーヴ県南支部	盛岡本部にご連絡ください	
両磐	居住地の役場障がい福祉担当課、または担当の相談支援専門員等にご相談ください。		

3. 令和5年度 岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業連絡協議会 名簿

[委員]

所 属	役 職 名	氏 名	備 考
岩手医科大学	理事長	小川 彰	会長
岩手医科大学	脳神経内科・老年科分野教授	前田 哲也	副会長
岩手医科大学	精神神経科学講座教授	大塚 耕太郎	副会長
岩手医科大学	リハビリテーション医学教授	西村 行秀	副会長
いわてリハビリテーションセンター	副センター長	阿部 深雪	副会長
岩手西北医師会	参 与	及川 忠人	
岩手県医師会	常 任 理 事	久保田 公宜	
岩手県立療育センター	所 長	葛西 健郎	
岩手県立大学	社会福祉学部教授	中谷 敬明	
いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴ	代 表	堀間 幸子	
いわて高次脳機能障害友の会イーハトーヴ	ピアサポーター	阿部 類	
岩手障害者職業センター	所 長	石井 賢治	
岩手県社会福祉事業団	事務局次長	與羽 勝則	
岩手県社会福祉協議会・障害者福祉協議会	会 長	松田 賢雄	
社会福祉法人カナンの園	監 事	大信田 康統	
盛岡広域圏障害者地域生活支援センターMy夢	所 長	工藤 宏行	
岩手リハビリテーション心理研究会	代 表	山館 圭子	
地域活動支援センター星雲 相談室	相談支援専門員	菅野 利恵子	
宮古圏域障がい者福祉推進ネット	主任相談支援専門員	佐々木 大介	
岩手県福祉総合相談センター	障がい保健福祉課長	原 勝雄	
岩手県教育委員会	特別支援教育課長	最上一郎	
盛岡市保健福祉部	障がい福祉課長	畑山 紀枝	
岩手県保健福祉部	障がい保健福祉課総括課長	日向 秀樹	

[岩手県保健福祉部]

所 属	役 職 名	氏 名	備 考
岩手県保健福祉部障がい保健福祉課	こころの支援・療育 担当課長	内館 健介	
	こころの支援担当 主事	高橋 希望	

[県支援拠点機関]

所 属	役 職 名	氏 名	備 考
いわてリハビリテーションセンター	理 事 長	大井 清文	
	副センター長	今野 秀一	
	総合相談科長	上田 大介	
	医療社会事業士	後藤 敦博	

令和5年度 高次脳機能障がい支援担当者名簿

No.	職名	氏名	担当
1	副センター長 兼地域支援部長	今野 秀一	事業統括
2	地域支援部副部長	石川 美弥子	地域支援
3	看護部長	古舘 郁子	研修、イーハトーヴ支援
4	看護師	川崎 美香子	当事者交流会
5	作業療法士	吉田 雄哉	研修、当事者交流会
6	言語聴覚士	菅原 慎	HP・メールニュース・支援ツール、当事者交流会
7	主任臨床心理士	吉田 賢史	相談支援、HP・メールニュース・支援ツール、イーハトーヴ支援
8	臨床心理士	村田 美歩	相談支援、当事者交流会
9	総合相談科長	上田 大介	相談支援、地域支援、研修、イーハトーヴ支援、当事者交流会、事務局
10	医療社会事業士	佐々木 春美	研修、当事者交流会
11	医療社会事業士	後藤 敦博	相談支援、地域支援、研修、HP・メールニュース・支援ツール、イーハトーヴ支援、当事者交流会、事務局

【編集後記】

当事業の実施にあたり、2023年度も県内外問わずたくさんの方にご協力・ご尽力いただきました。心より感謝申し上げます。

2023年度は新型コロナウイルス感染症対策をしながら、4年ぶりに対面形式での交流会や研修会を実施することができました。また、月1回ではありますが、オンラインサロンを通して高次脳機能障がい当事者や支援者が日々の出来事や次回のオンラインサロンまでにどのように過ごしたいと感じているか等について話し合うことで「有意義な時間を過ごせた」という感想を多くいただきました。

当事者・家族・支援者が「大変なこともあるけど何とかやっぺいこう！」「一緒に頑張ろう！」という気持ちに少しでもなれるような事業を皆様と共に発展させていきたいと思っておりますので、今後とも何卒よろしく願いいたします。

(後藤敦博)

2023年度

岩手県高次脳機能障がい者支援普及事業及び
高次脳機能障がい者地域支援体制整備事業報告書

公益財団法人 いわてリハビリテーションセンター
〒020-0503 岩手県岩手郡雫石町七ツ森 16-243

T E L 019-692-5800

F A X 019-692-5807

E-mail koujinou-shien-reha@irc.or.jp

H P <http://www.irc.or.jp/koujinoukinoushougai/>

